



第48回
全道造形教育研究大会
留萌大会

大会要項

—— 留萌大会主題 ——
造形への誘い — 悠 — 遊 — 優 —
—— 留萌へ ——

研 究 主 題

楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と、
共感し寄り添う指導

1998

9/10 (木) 第1日目
留萌市立緑丘小学校

9/11 (金) 第2日目
緑丘小学校・留萌中学校
留萌高校

〈シンボルマークについて〉

第48回全道造形教育研究大会留明大会にける会員の意気込みを留明の美しさを代表する、深紅の夕日・吸い込まれるような日本海の青・そして、緑豊かな大地で表現したものです。

それぞれの色、赤には会員の情熱、青には深い思い、そして緑には成長への希望の意を込めたもので、全体として、本大会の成功の願いを込めたものです。

制作 留明大会実行委員長
織田達史

第 48 回
全道造形教育研究大会
留 萌 大 会

— 留萌大会主題 —

造形への誘い—悠—遊—優—留萌へ

— 研 究 主 題 —

楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と、共感し寄り添う指導

1998

9.10(木)第1日目 留萌市立緑丘小学校

11(金)第2日目 緑丘小学校・留萌中学校・留萌高校

目 次

挨拶	北海道造形教育連盟委員長 芝木秀昭	3
	北海道造形教育研究大会留萌大会 実行委員長 織田達史	4
祝辞	北海道教育庁留萌教育局長 柳沢力様	5
	留萌市長 長沼憲彦様	6
	留萌市立緑丘小学校長 二ツ谷正様	7
会場案内図		8
大会日程		11
開会式次第		11
閉会式次第		11
記念講演		12
大会役員名簿		13
研究紀要	北海道造形教育連盟研究主題	15
	留萌大会研究主題	17
公開授業一覧		27
授業概要		28
分科会構成一覧		35
提言概要		36
留萌の歴史探訪		49
北海道造形教育ネットワーク紹介		50
北海道造形教育連盟規約		52
平成10年度 北海道造形教育連盟名簿		53
全道造形教育研究大会の開催地と研究主題一覧		54

第48回全道造形教育研究大会によせて



北海道造形教育連盟委員長 芝木秀昭

日本海の荒波と潮風の厳しい大自然、そして、たくましく豊かな人間味あふれる留萌市において第48回全道造形教育研究大会が開催されますことに深く感謝申し上げます。

今回の第48回留萌大会は、日本の教育が大きく転換し、変容する中での大会であります。

申すまでもなく、今日の教育現場の子どもをとりまく環境の悪化、そして人間疎外等々と数多くの問題に直面しています。今こそ、子どものみずみずしい感性を回復し「生きる力」や「考える力」「表現する力」を育むことが、私たち造形教育に携わるものにとって最大の課題であると思います。

このような時に、本大会の研究主題「楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と、共感し寄り添う指導」とありますように、今日の造形教育の課題に真正面から取り組まれております留萌の先生方の情熱に、心から敬意を表します。

かえりみますと、本連盟が全道大会を各地に開催し、本道の造形教育を高め、その実践を重ねようとした中で、留萌市が開催地として初の名乗りをあげたのが1983年第33回大会でありました。研究主題を「生活とふれ合い創る心の広がりを求める造形活動」と設定し、留萌管内あげて取り組まれたそのエネルギーは15年を経た今日でも心に残るものがあり、中身の濃い、得るものの大きな大会でありました。

このような歴史と伝統のある留萌市において時代が求めている造形教育の課題究明、さらに、未来を志向する造形教育は如何にあるべきかについて熱く語られ、その成果が北海道全域に新しい波として広がることを期待いたします。

ここに、留萌地方美術教育研究会の皆様のご尽力に感謝し、北海道教育委員会、留萌市教育委員会、各関係者の方々の心のこもったご援助、ご支援に厚くお礼を申し上げ、ご挨拶といたします。

留萌大会に寄せて

第48回全道造形教育研究大会留萌大会

実行委員長 織田 達史



第48回全道造形教育研究大会が、夕日に染まり黄金に輝く海の街、留萌市で開催できますことを、全道各地よりご参集下さいました皆様方とともに喜び合いたいと思います。

ここ留萌では、昭和58年に第33回大会を開催したことを思い起こされておられる方も多いと推察いたしております。

学校教育の中で子ども達が人間としての心の豊かさを培い、主体的に生きていくことができる資質や能力を育成することが求められております。

図画工作科や美術科においても、造形的な創造活動を一層重視し、創造性の基礎としての表現制作の能力を高めるとともに、豊かな情操を培うための指導の充実を図ることが期待されています。

当実行委員会の母体である留萌地方美術教育研究会では、個性的表現を可能にする創造の原点としての「悠」、造形活動を膨らませる可能性を無限のものとする原点としての「遊」、支援の原点としての「優」を見だし、大会主題を「創造への誘いー悠ー遊ー優ー留萌へ」と掲げ、更に、研究主題を「楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と、共感し寄り添う指導」とおさえ、平成7年に開催決定後、3ヵ年計画で主題を深めてきたところです。

会員数は、若い先生方中心の36名と少人数ですが、21世紀を指向する人間教育としての造形教育を目指して、新しい時代に対応する造形教育の在り方、方向性を考える一つのきっかけにしようと、臆病さを退け鋭意努力しております。

諸々の場面で先生方のご指導ご助言をいただく中で大きく育てていただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、本研究大会の開催に当たりまして、北海道教育庁留萌教育局・留萌市教育委員会をはじめ、ご支援ご協力を賜りました関係者の皆様方に感謝を申し上げますとともに、実り多い大会になるようお力添えをよろしくお願いいたします。

造形教育の一層の発展を期待して



北海道教育庁留萌教育局長 柳 澤 力

第48回全道造形教育研究大会が、千望の丘と黄金岬の街、ここ留萌市において15年ぶりに全道の先生方をお迎えし開催されますことを心からお祝い申し上げます。また、本日お集まりの先生方には、日頃からそれぞれの地域や学校において造形教育の推進にご尽力をされ、大きな成果をあげており、心より感謝申し上げます。

さて、本研究会は第1回大会以来、子供たちに美しいものを求めていこうとする態度を育てるとともに、造形教育の指導内容や指導方法の改善・充実に大きな役割を果たし、北海道の造形教育の発展に多大な貢献をされており、深甚なる敬意を表するものであります。

ご承知のとおり、これからの学校教育においては、ゆとりの中で生きる力をはぐくむことを目指して、一人一人の能力・適正に応じた教育を展開し、個人の多彩な能力を開化させ創造性や独創性を涵養していくことが求められております。

特に、図画工作科・美術科の教育においては、子供たちに美術を愛好する心情と美に対する感性を育て、造形的な創造活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養うことが大切であります。

このうよなときに、本研究大会が「楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と、共感し寄り添う指導」を研究テーマに、造形遊びや立体の表現などの保育や授業公開を行い、分科会をとおして研究協議を深められますことは、誠に時宜を得たものであり、その研究成果に強くご期待を寄せるものであります。

終わりに、本研究大会の準備や運営にご尽力いただきました関係各位に心から敬意を表しますとともに、本研究会の益々のご発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

歓迎のことば



留明市長 長 沼 憲 彦

第48回全道造形教育研究大会が、黄金岬の潮騒と夕日に映える、ここ「みなと翔く」留明市で開催されるに当たり、全道各地からご参加されました関係各位に対しまして心より歓迎のご挨拶を申し上げます。

さて、今日21世紀に向け、著しい科学技術の変革とともに政治や経済、社会の変化が激しく先行き不透明な厳しい時代を迎えています。また広範で急速な社会の変化は、確かに生活の豊かさや便利さをもたらしていますが、その反面、社会環境の悪化、家庭や地域におけるモラルの低下等の影響によって、子どもの心身の健全な成長を阻害する様々な問題が指摘されています。とりわけ幼児期や児童期における家庭との触れ合いの希薄、親と子の不確実な関係や体験不足などによって青少年の正常な感性の発達や情操の形成を妨げているのではないかと考えられます。

このような折に、全道造形教育研究会が「造形への誘い—悠—遊—優—留明へ」（楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と、共感し寄り添う指導）をテーマに掲げ、豊かな感性や創造力を育てる造形教育を通して、未来を担う児童生徒の健やかな成長を目指すことは急速な技術革新や情報化・国際化の時代を乗り越える「強い意志と豊かな感性調和のある情操の育成」に大きく寄与するものと確信しています。

時間の限られた研究協議の中で、日頃の実践を率直に交流し合い、これからの図工・美術教育が目指す人間づくりの指針が得られ、学校教育の今日的課題である「生きる力」の育成につながるよう、心から期待しています。

終わりに「48」という年輪を数えた本研究大会の成功と、本会のみならず皆様のご発展、そしてご参会いただきました皆様のご健勝を祈念申し上げます、ご歓迎のことばと致します。

歓迎のことば



留明市立緑丘小学校長 ニツ谷 正

「造形への誘い—悠—遊—優—留明へ」の大会主題のもとに開催されます、第48回全道造形教育研究大会留明大会に、留明管内はもとより全道各地からご参加を頂き心からご歓迎を申し上げます。

本校は、留明市の住宅地区形成の急速な発展と東光小学校の児童数増、自衛隊官舎の増設等に伴い、昭和33年4月1日に新設開校されました。以後、増改築を重ねましたが、平成6年3月、新校舎が完成して現在を迎えております。

この間、「子供が生きる緑丘小学校の創造」を指標として、数々の研究大会を開催して参りました。昨年度は、本研究大会の「留明ブレ大会」を開催したところであります。

自然に恵まれた、近代設備の整った校舎でありますので、主会場をお引き受けしたところです。

さて、激しい社会の変化に主体的に対応し、個性的・創造的で豊かな心を持ち、たくましく生きる子供を育成する教育の推進が強く求められておりますが、図画工作科・美術科においては、造形的な創造活動の基礎的な能力を育成するとともに、表現する喜びや芸術を愛好する豊かな心を育てることが重視されております。

したがって、子供たちの夢を育み、自分なりのよさや感覚を思いのままに発揮し、表現活動を楽しむ創造活動を展開することが大切であります。

そんな中で、「楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と、共感し寄り添う指導」を研究主題に造形教育に携わっている幼稚園から高等学校までの先生方が一堂に会して、授業や研究実践の交流が深められることは、誠に時宜を得たものと存じます。

本研究大会が多くの成果を上げられ、成功裡に終わられますようご祈念申し上げ、授業公開をいたします幼稚園と6校を代表して歓迎のことばといたします。

会 場 案 内 図

主会場 緑丘小学校

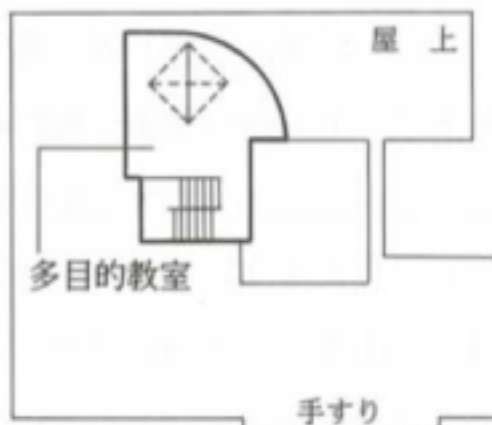
(幼稚園・小学校授業、分科会、開会式、全体会、講演会、閉会式)

開会式、全体会

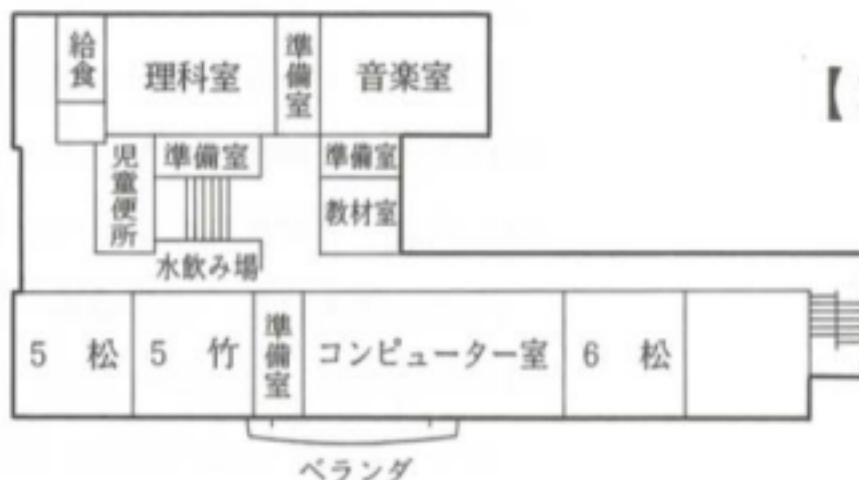
講演会、閉会式

緑丘小体育館

幼稚園授業	1階多目的ホール
分科会	1年松組
小2授業	体育館
分科会	2年松組
小3授業	3年松組
分科会	3年竹組
小6授業	5年松組
分科会	5年竹組
中1分科会	6年松組
中2分科会	6年竹組



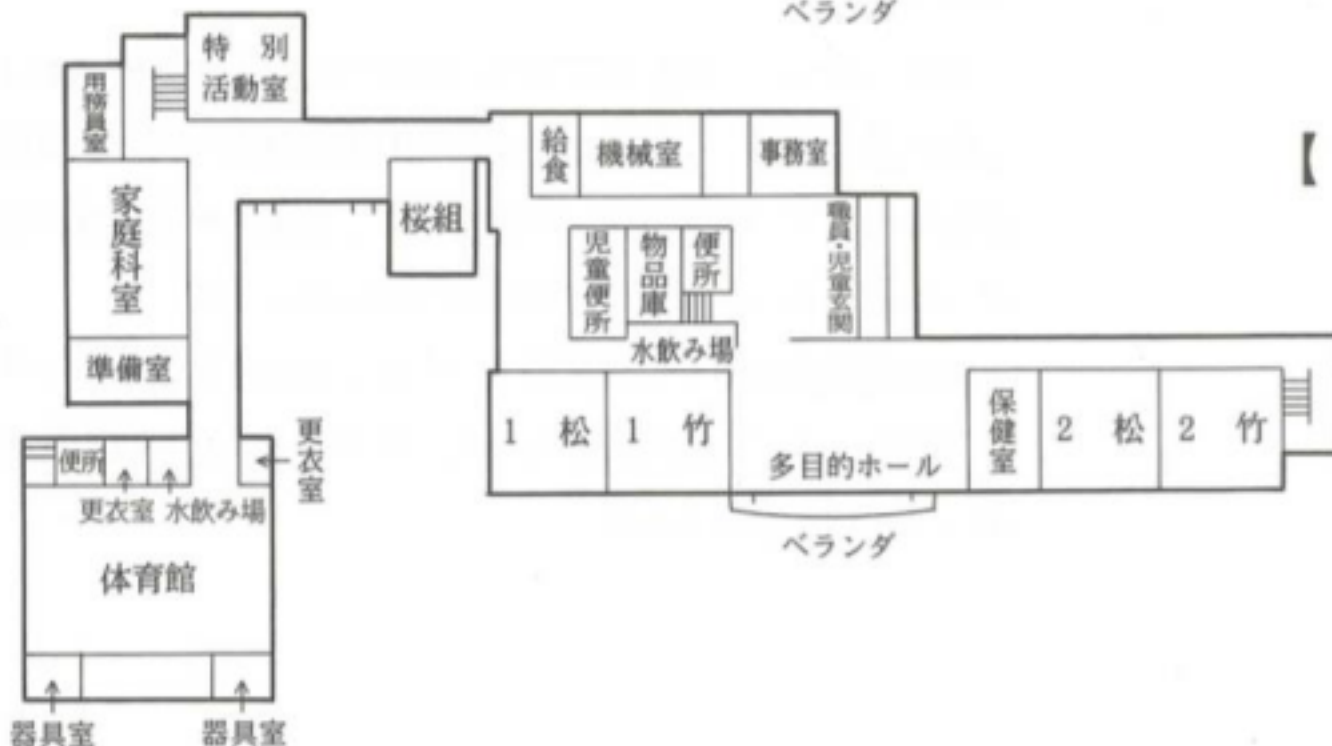
【4階】



【3階】



【2階】



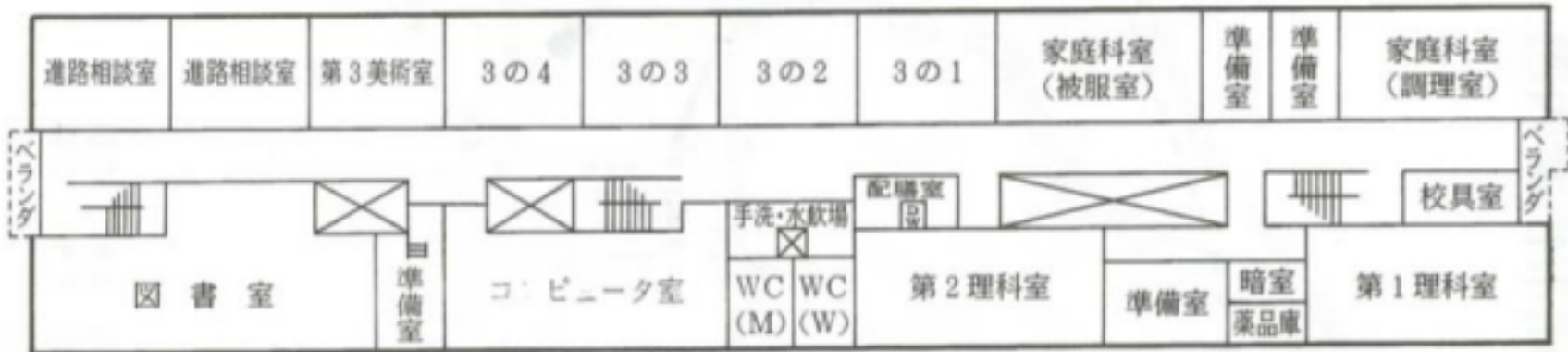
【1階】

会 場 案 内 図

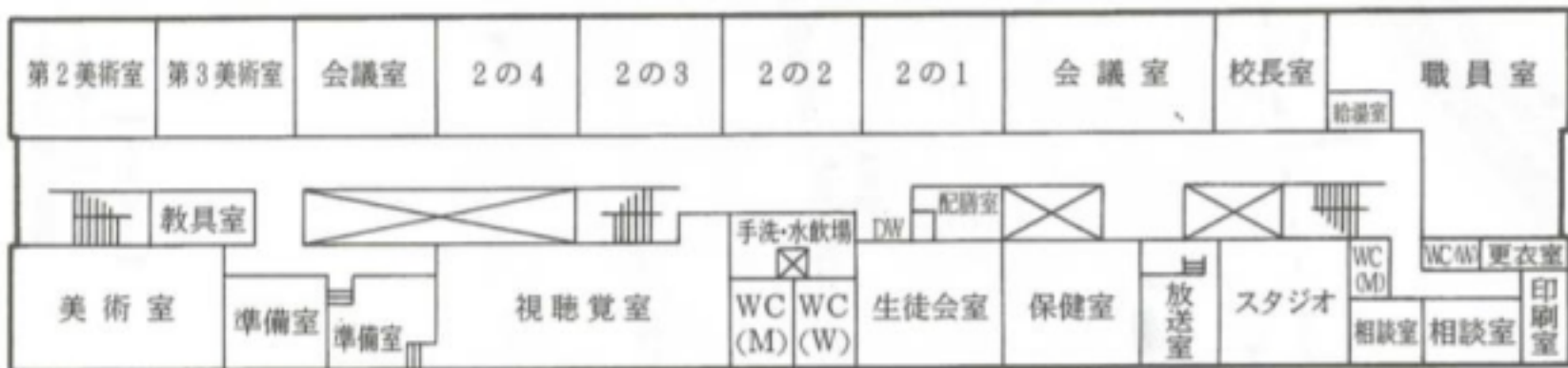
授業会場 1 留萌中学校（分科会は緑丘小学校です）

- 1年 授業教室 2階 美術室
- 2年 授業教室 3階 家庭科室

【3 階】



【2 階】



授業会場 2 留萌高等学校（分科会も行います）

- 授業教室 3階 工芸室
- 分科会教室 3階 美術室

【3 階】



留萌市街案内図



- 印はガソリンスタンド
- 【ハイヤー】
 フルノハイヤー ☎42-2233 本町1丁目
 留萌三交ハイヤー ☎42-2222 栄町3丁目
 ☎43-6666



第48回 全道造形教育研究大会留萌大会

大会主題

造形への誘い—悠—遊—優—留萌へ

期 日 平成10年9月10日(木)・11日(金)

会 場 留萌市立緑丘小学校(主会場)・留萌市立留萌中学校・北海道留萌高等学校

〈大会日程〉

12:15	13:00	13:50	14:10	15:40	17:20	18:00	20:00
受付	開会式	全体会	休憩	講演会	留萌歴史探訪	準備	歓迎交流会

○2日目 *幼稚園・小学校・中学校分科会

公開授業(緑丘小、留萌中) 分科会討議(緑丘小) 閉会式(緑丘小)

8:45	9:30	10:15	11:00	12:00	13:00	15:00	15:30	16:00
受付	公開授業	休憩移動	分科会 授業研究協議	昼食	分科会 提言研究協議	移動 休憩	閉会式 (緑丘小)	

*高等学校(北海道留萌高等学校)

11:15	11:45	12:35	13:30	15:00	15:30	16:00
受付	公開授業 (留萌高校)	昼食	分科会 授業提言協議 (留萌高校)	移動 休憩	閉会式 (緑丘小)	

〈開会式次第〉

1. 開会の言葉	留萌大会副実行委員長	傳法谷	巖
2. 挨拶	北海道造形教育連盟委員長	芝木 秀昭	
	留萌大会実行委員長	織田 達史	
	留萌市立緑丘小学校長	二ツ谷	正
3. 祝辞	北海道留萌教育局長	柳澤	力様
	留萌市長	長沼 憲彦	様
4. 来賓・講師紹介	留萌大会事務局長	斉藤 友昭	
5. 研究主題説明	北海道造形教育連盟研究部長	阿部 宏行	
	留萌大会研究部長	池田 忠喜	
6. 閉会の言葉	留萌大会副実行委員長	傳法谷	巖

*連絡事項

〈閉会式次第〉

1. 開会の言葉	留萌大会副実行委員長	畠山之史
2. 挨拶	北海道造形教育連盟委員長	芝木秀昭
3. 連盟旗の引継ぎ	留萌地方美術教育研究会長	織田達史
	オホーツク造形教育連盟委員長	須貝 徹
4. 次期開催地代表挨拶	オホーツク造形教育連盟委員長	須貝 徹
5. 閉会の言葉	留萌大会副実行委員長	畠山之史

講 演

〈演 題〉

「今、ニコニコ・ピチピチ・
伸びやか・指導の喜びを」

〈講 師〉

愛知産業大学教授

新 川 昭 一 氏



〈プロフィール〉

昭和2年	東京浅草に生まれる
昭和24年	東京美術学校師範科卒業（東京芸術大学）
昭和24年	公立中学校 教諭
昭和43年	東京大学教育学部附属中学校 高等学校教諭
昭和50年	文部省教科調査官
昭和60年	文部省視学官
平成2年	金沢大学大学院 教授
平成4年	愛知産業大学 教授（現在に至る）
平成9年	文教女子大学講師（現在に至る）

講 演 会 次 第

- | | | |
|------------|------------|-----------|
| 1. 講 師 紹 介 | 留萌大会副実行委員長 | 上 坪 敏 |
| 2. 講 演 | 愛知産業大学教授 | 新 川 昭 一 氏 |
| 3. 謝 辞 | 留萌大会副実行委員長 | 畠 山 之 史 |

大会役員・運営委員・実行委員・事務局一覧

〔大会委員〕

大会長

北海道造形教育連盟委員長 芝木秀昭

大会副会長

北海道造形教育連盟副委員長 重山 惠

北海道造形教育連盟副委員長 伊藤英明

北海道造形教育連盟副委員長 須貝 徹

北海道造形教育連盟副委員長 奥野郁男

大会役員

北海道造形教育連盟監査 山口長伸

北海道造形教育連盟監査 関 建治

北海道造形教育連盟事務局長 藤井正治

北海道造形教育連盟会計部長 富田 泰

北海道造形教育連盟庶務部長 池田悦子

北海道造形教育連盟広報部長 毛馬内 國夫

北海道造形教育連盟研究部長 阿部宏行

北海道造形教育連盟事業部長 田口和男

〔運営委員〕

委員長

中前賢保（留明管内教育研究所長）

副委員長

佐藤鎮夫（留明市校長会長・留明教育研究協議会長・港南中学校長）

委員

別段了昭（留明管内市町村教育委員会連絡協議会長）

笹森良昭（留明市教育委員会教育長）

櫻庭正（留明管内小中学校長会長・留明小学校長）

松本美樹雄（留明管内小中学校教頭会長）

織田達史（留明管内美術教育研究会長・実行委員会委員長）

三谷英男（留明市教頭会長）

石塚俊彦（留明市PTA連合会長）

林 堯（北海道立留明高等学校長）

二ツ谷正（留明市立緑丘小学校長）

中川良一（留明市立東光小学校長）

富田泰雄（留明市立留明中学校長）

神力シゲ（かもめ幼稚園長）

金澤典子（留明市教育研究協議会図工美術部会長）

上坪敏（実行委員会副委員長）

傳法谷巖（実行委員会副委員長）

畠山之史（実行委員会副委員長）

斉藤友昭（実行委員会事務局長）

竹内堅治（実行委員会事務局次長）

池田忠喜（実行委員会研究部長）

〔大会実行委員〕

委員長

織田達史（留明市立幌糠中学校長）

副委員長

上坪敏（留明市立沖見小学校長）

傳法谷巖（小平町立達布小学校長）

畠山之史（苫前町立力昼小学校長）

事務局長

斉藤友昭（小平町立本郷小学校教頭）

事務局次長

竹内堅治（小平町立鬼鹿小学校教頭）

事務局員

佐々木忍（留明市立藤山小学校教諭）

松岡裕子（留明市立沖見小学校教諭）

斉藤恭子（留明市立幌糠小学校教諭）

<研究部>

部長

池田忠喜（増毛町立舎熊小学校教頭）

次長

野島操（小平町立本郷小学校教諭）

主任

梅原賢伸（羽幌町立羽幌中学校教諭）

部員

岡田加世子（留明市立東光小学校教諭）

金澤典子（留明市立港南中学校教諭）

工藤 臣（留明市立留明中学校教諭）

豊崎東洋（留明市立留明小学校教諭）

居島順子（留明市立緑丘小学校教諭）

秋元のぞみ（留明市立緑丘小学校教諭）

松岡宏悦（留明市立潮静小学校教諭）

松田恭子（増毛町立増毛小学校教諭）

塩田晃（天塩町立天塩小学校教諭）

高橋 鯨治（かもめ幼稚園）

岩淵章夫（北海道立留明高等学校教諭）

日下智子（小平高等養護学校教諭）

<会計部>

部長

池田優子（留明市立緑丘小学校教諭）

部員

松岡裕子（留明市立沖見小学校教諭）

<受付・交流会部>

部長
畠山之史(苫前町立力昼小学校校長)
次長
池田優子(留萌市立緑丘小学校教諭)
主任
斉藤恭子(留萌市立幌糠小学校教諭)
部員
末吉学(留萌市立緑丘小学校教諭)
斉藤豪(留萌市立緑丘小学校教諭)
藤田直美(留萌市立緑丘小学校教諭)
佐渡圭介(留萌市立緑丘小学校教諭)
山田広治(留萌市立留萌中学校教諭)
古市聖佳(留萌市立留萌中学校教諭)
松本美樹雄(留萌市立留萌中学校教頭)
武田忠夫(留萌市立礼受小学校教頭)
江幡秀夫(留萌市立幌糠小学校教頭)
吉岡範雄(留萌市立潮静小学校教頭)

<宿泊輸送部>

部長
三谷英男(留萌市立東光小学校教頭)
次長
小谷宣雄(留萌市立港南中学校教頭)
主任
井上満美子(留萌市立沖見小学校教諭)

<接待部>

部長
長尾保廣(留萌市立留萌小学校教頭)
次長
加納賢二(留萌市立緑丘小学校教諭)
主任
松岡裕子(留萌市立沖見小学校教諭)
部員
中野めぐみ(留萌市立緑丘小学校教諭)
牧尾真由子(留萌市立緑丘小学校教諭)
佐藤豊子(留萌市立緑丘小学校教諭)
井上祥子(留萌市立緑丘小学校教諭)
白鳥智枝(留萌市立留萌中学校)
吉田幸重(留萌市立留萌中学校)
小野みね子(北海道立留萌高等学校)

<会場部>

部長
運上和信(留萌市立緑丘小学校教頭)

次長
佐々木忍(留萌市立藤山小学校教諭)
主任
高木博(留萌市立緑丘小学校教諭)
部員
山田潮(留萌市立緑丘小学校教諭)
沢口真裕美(留萌市立緑丘小学校教諭)
高橋香(増毛町立増毛小学校教諭)
小西共美(羽幌町立羽幌小学校教諭)
村元隆一(羽幌町立羽幌小学校教諭)

<展示部>

部長
原田菊枝(留萌市立港南中学校教諭)
次長
秋元のぞみ(留萌市立緑丘小学校教諭)
主任
穂山拡希(留萌市立緑丘小学校教諭)
部員
滝本郁子(羽幌町立羽幌小学校教諭)

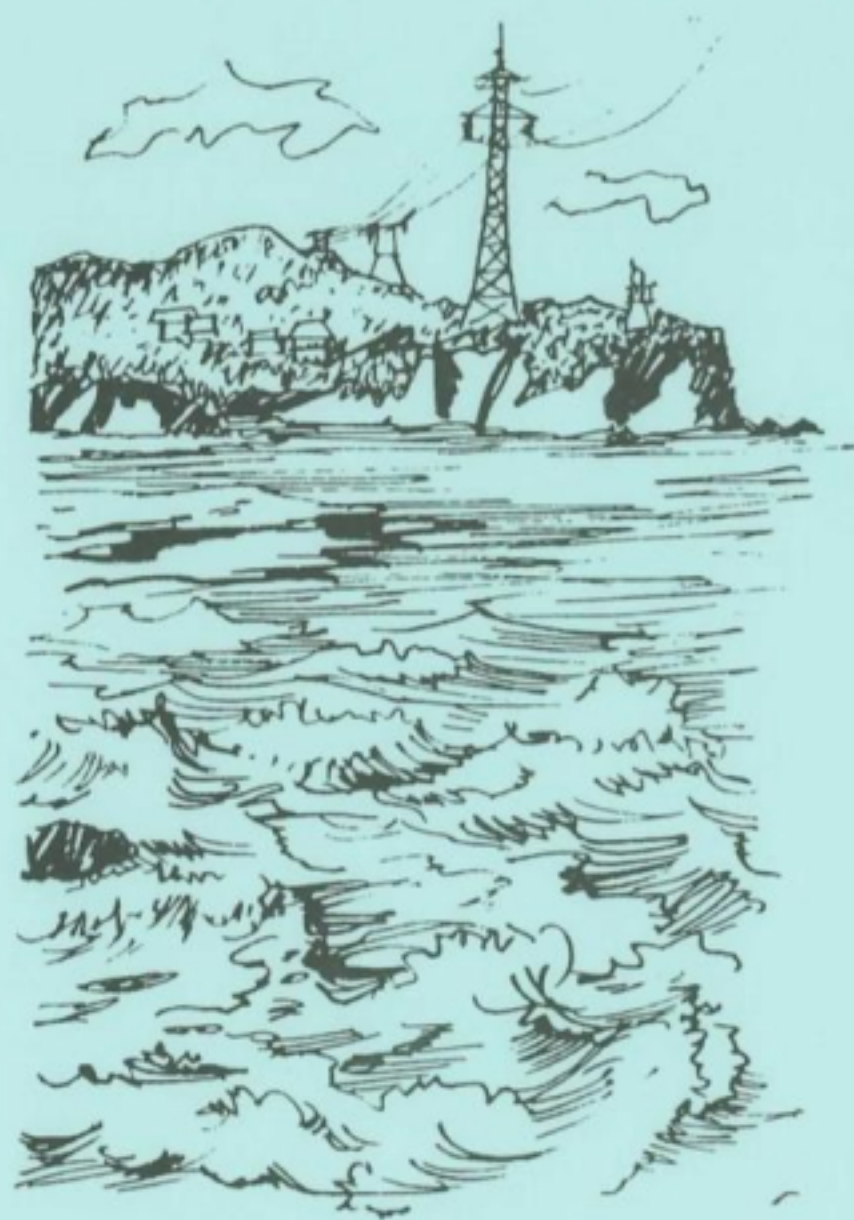
<編集部>

部長
傳法谷巖(小平町立達布小学校校長)
次長
室谷雄一(初山別村立初山別小学校教頭)
主任
松永直子(羽幌町立羽幌小学校教諭)
部員
立花陽子(苫前町立古丹別小学校教諭)
上坂勝美(留萌市立沖見小学校教頭)
木村幸三(留萌市立港北小学校教頭)
松井徳夫(留萌市立北光中学校教頭)
半澤豊秀(留萌市立幌糠中学校教頭)
大水隆司(留萌市立三泊小学校教頭)

学校代表

高橋録治(かもめ幼稚園)
運上和信(留萌市立緑丘小学校教頭)
鈴木善博(留萌市立東光小学校教諭)
長谷川敏之(留萌市立留萌小学校教諭)
山田広治(留萌市立留萌中学校教諭)
川俣泰彦(留萌市立港南中学校教諭)
岩渕章夫(北海道立留萌高等学校教諭)

研究紀要



北海道造形教育連盟 研究主題「自らの心を拓く造形学習の在り方」

留萌大会主催 「造形への誘い -悠-遊-優- 留萌へ」

大会研究主催 -楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と、共感し寄り添う指導-

北海道造形教育連盟 研究部長 阿 部 宏 行

1. 〈いま〉〈ここ〉〈わたし〉を基盤にした造形教育をめざして

我々が夢見た「2001年」は、超高層ビルが建ち並び、空飛ぶ乗り物が自由に行き来し、ロボットが労働を行い、人間は快適な空間でみんなが幸せそうに暮らしている。こんな夢を見ていた。しかし、3年後の2001年は夢物語のような世界と異なった世界を迎えようとしている。みんなの見ていた夢は崩壊し始めた。産業革命以来の「物質主義」「効率優先主義」「科学万能主義」など、自然を畏れない人間の業だけが優先された高度成長の時代を経て、「大きな物語」が喪失し、方向さえみえない時代へと続いている。

我々の身体は知らず知らずの内に制度化されていた。「入力依存症」(インプット・ホリック)ともいえるような“晴天の昼間でも照明をつけていたり”“理由もなく、テレビから情報が流れていないと不安になっていたり”と、携帯電話やウォークマンなども含めて、音や光、情報など現代を象徴するようなものに「依存」しなければ生活できないようになってしまっていた。しかし、それらは実のところ実体のない自分の身体からかけ離れた空疎なものとなっている。身体性を喪失し、そして自分さえも喪失してしまったのである。

我々は「夢物語」の陰に潜んでいた今の時代を心の奥底で予期していたのかもしれない。

なぜなら、今の教室の姿が10年後、20年後の姿となるのだから。

〈いま〉を大切にすることは、10年後20年後を紡ぐことなのである。「未来」は向こうからやってくるのである。

(1) 子どもと向き合い未来を紡ぎ出す

まず、子どもと向かい合うこと、本音で語ることが何より大切である。それも、自分の言葉で自分を語ることである。「誰がこう言った」という評論家のような言葉はいらない。子どもの目を見て語るのである。「教育」という言葉に縛られて、子どもに何か教え育てなくてはならないとか、「子どもの無限の可能性を引き出す」というような呪縛に惑わされて自分の目の前にいる子どもの〈いま〉を摘み取ってしまってはならない。

子どもの〈いま〉を摘み取ることは、未来もいっしょに摘み取ってしまうことになる。

「未来」は子どもといっしょに紡ぎ出せばよい。

(2) 人ともものと自分と対話する

子どもと「未来」を紡ぎ出すということは、子どもが対象にかかわり、ものと対話することを十分に保障することである。ものと対話し、友と語り、そして、自分と対峙する活動に造形の多くの価値がある。留萌大会の研究主題の「楽しさにひたる」という言葉にも十分意図が読みとれる。

2. 2001年の全国大会へ北海道の英知を集めて

〈ここ〉(留萌大会)が我々の起点であり、〈いま〉なのである。

我々は単に場所(留明)を共有したのではなく、〈わたし〉と〈わたし〉の〈いま〉を共有し、〈ここ〉で新たな〈わたし〉を見つけ出すことである。対話とは単におしゃべりすることを意味しているのではない。五感を通して実感した実体を積み重ねることである。それは、見ることでもとらえられるし、聞く、味わう、歩くことでもとらえることができる。

「あの時の留明の海を見たかい?」「ああ、あの紺碧の深遠な海の色を憶えているよ」「ああ、私も坂を上りつめた“あの時”“あの場所で”見たよ」など、海の色だけでなく、その時の空気さえも実体として残るのである。

我々がこの留明の場を離れても、〈ここ〉で共有した〈いま〉は確かに残るのである。

教育の営みも、子どもと〈ここ〉で実感を伴った実体のある〈いま〉を共有することである。どうだろう?あなたの〈いま〉は?

(1) 「美術伝道師」としての自覚を!

感じたことを伝える「美術伝道師」としての役割を担ってほしい。教師という殻を脱いで人として絵を描く楽しさ、ものをつくるすばらしさを留明の子どもたちといっしょに分ち合い、そして、再び自分の教室に戻って子どもと向かい合い、自信をもって美術(アートする)のよさを伝えてほしい。美への憧れ、造形の楽しさは必ず子どもの心を揺さぶるはずである。

(2) アート・フロンティア・北海道

100年の時を超えて開拓精神を今こそ結集しよう。この北海道の大地に鋤を入れ、大いなる文化を創造したフロンティア精神に溢れた先達の思いを、我々の手で再び燃え上がらせよう。文化を築くのは我々自身であり、共に未来を紡ぐ子どもたちなのである。

「北からはじまる21世紀」を合い言葉に英知を集めよう。

3. 英知を積み重ねて

2001年の全国大会にむけて、98年の留明、99年のオホーツク、2000年の函館と各支部の連携を深めながら、研究を積み重ね、実りある全国大会にしたい。今年度は下記のような推進計画のもとに進めていきたい。

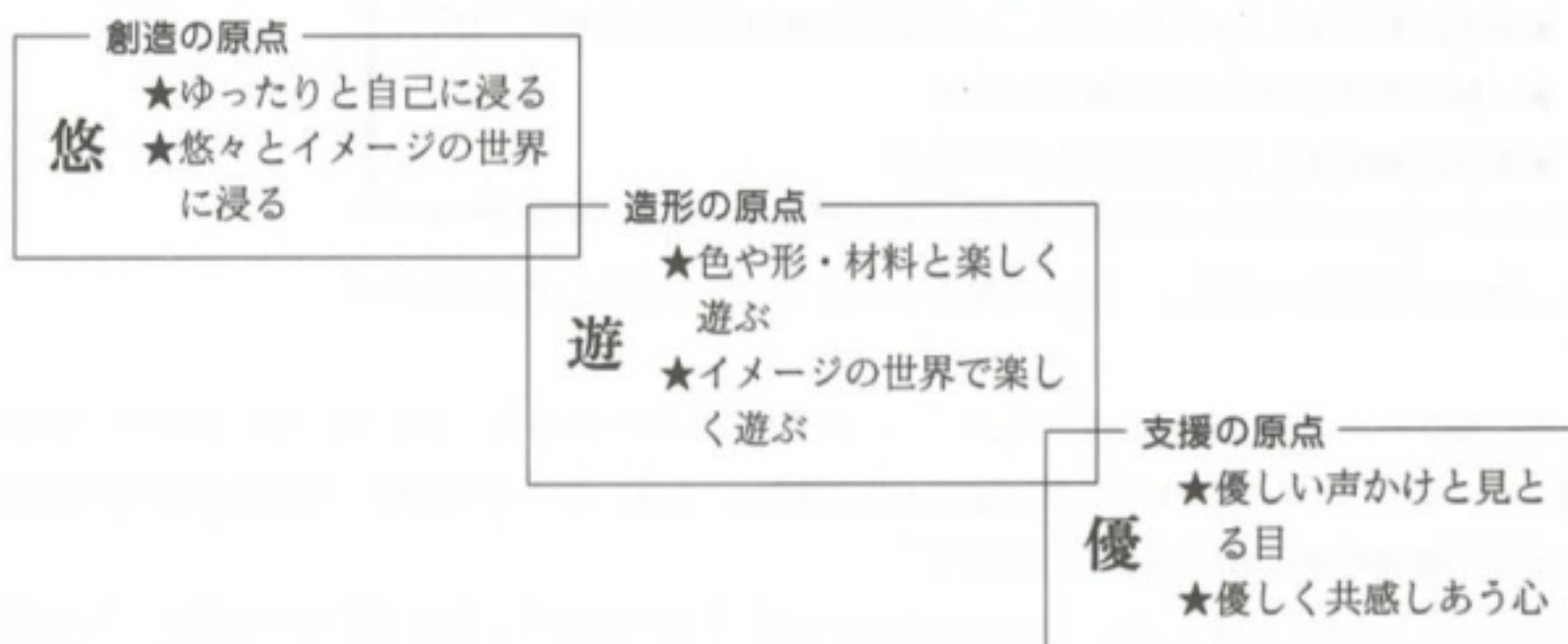
- 全国大会にむけた意見や実践の交流
 - ・北海道宣言「21世紀に向けた造形の未来」(仮)の作成
 - ・研究主題の草案づくり
- 全道造形ネットワークの充実・発展
 - ・ネットワーク会議による各支部との意見交換
 - ・インターネットにホームページ(HP)の開設
 - ・Eメールによる双方向の造形通信
- 全道大会の充実・発展
 - ・各支部の特色を生かした大会の開催
- 教育美術展における審査の交流

さて、〈いま〉〈ここ〉〈わたし〉という3つのキーワードで、いっしょに分ち合う未来をこの留明で描いてみよう。

大会主題 造形への誘い—**悠**—**遊**—**優**—留萌へ

研究主題 楽しさにひたり伸びやかに表す

造形活動と、共感し寄り添う指導



留萌大会実行委員会研究部長 池田忠喜

1. 大会主題設定にあたって

子供に適合した望ましい教育の在り方が、18世紀初頭より今日に至る、ルソー・ペスタロッチ・チゼック・ニール等、数々の教育家や思想家の優れた業績により、「子供特有の心身の成長を自然な状態の中で育み引き出し、押しつけるより愛をもって感じ取り受け入れること、自発性や直観を生かすこと、実物や實際を重んずること、身体・五感を働かせて経験的に学ばせること、知性と感性を溶け合わせること、知・徳・体の調和により発達する健全な人間の姿を求めること」であることが提起されました。

しかしながら、近代の目ざましく発展・拡大する科学・技術や産業・社会に即応し、すぐに役立つ教育が圧倒的支持をもって進められ、真の教育の在り方が日の目をみることは久しくありませんでした。

造形美術教育においても、美術教師チゼック等優れた先達の実践はありはしたものの、一般的には目に見えた教育的効果や社会的な利益に直接繋がらず、その教科性を危ぶみ支持基盤も広がらなかったことから、いきおい技術指導面での実践にはしり、作品そのものの出来ばえを競う作品主義や技術主義でその実績を認めて貰おうとする一時代があったことも否定できません。

今日、少子化・高齢化・国際化・産業の空洞化・技術革新等々、社会の急激な変化に伴い、これまでの知識偏重の教育から、個性重視の原則に立ち、意欲を持ってその時々々の事象に対処できる思考力・判断力・表現力等、生きて働く力を求める教育へと進むことになりました。

加えて、このような教育改革の考えや思想は、造形美術教育本来の目指すところと一致しており、近代教育史上、千載一遇の機会を得たこととなります。

しかしながら、顕著な進歩が見えづらい教育の営み、人々を納得させ得る方法上の裏づけと実証の

不足という弱さを抱えているのも事実です。

そこで、本会では前次研究での3カ年にわたる継続研究として「自らの心をより豊かに拓く造形学習のあり方」についての実践検証を進めてきました。

その3カ年の継続研究により

- ★造形活動に楽しみを見いだすことの出来る題材の工夫と掲示の仕方
- ★活動に喜びを見いだす支援のあり方
- ★表現活動を楽しむ子供の評価のあり方

等が、徐々に明らかにされ、一定の成果を上げることができたと考えています。

一昨年度より、前研究実践の成果を踏まえ、標記の「造形への誘い—悠—遊—優—留萌へ」を大会主題とし「楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と、共感し寄り添う指導」を具体的研究主題として3カ年の継続研究に取り組んでおります。

このことによって、子供一人一人が自分を取り巻く世界の素晴らしさを主体的に認識していく資質や能力を育み、造形美術教育に求められている今日的課題「個性や創造性を重視し、創造的な造形活動の基礎的な能力を育てるとともに、表現の喜びを味わう」ことに迫ることが出来ると思います。

2. 大会主題と研究主題との関わり

【創造の原点】

- 悠
★ゆったりと自己に浸る
- ★悠々とイメージの世界に浸る

【造形の原点】

- 遊
★色や形・材料と楽しく遊ぶ
- ★イメージの世界で楽しく遊ぶ

→ 楽しさにひたり
伸びやかに表す造形活動

【支援の原点】

- 優
★優しい声かけと見とる目
- ★優しく共感しあう心

→ 共感し寄り添う指導

3. 大会主題・研究主題の具現化

子供一人一人は、自分の表現の思いや願いを持ち、それを自分の表現の方法で、心ゆくまで試み、自分らしい表現を楽しみたいと願っています。

本来、その願いが実現できることを期待して、図画工作・美術の時間を楽しみにしていなくてはならないはずで、事実図画工作・美術の授業において、子供たちの明るい笑顔が見られるようになってきていますが、それは決して十分なものとは言えず、改善が望まれています。

では、子供たちが「表現の喜びを味わう」時とは、どういう状況、環境に因るのでしょうか。それは、決して教師の考えた技法や表現方法を押つけられ、準備した手順に従って進められる学習を意味しません。そのような状況下の中で作られた作品の完成度や出来ばえに満足する子供もいないわけではありませんが、それは稀であり、「表現の喜びを味わう」こととはねらいを異にします。

「表現の喜びを味わう」とは、子供一人一人が、自分のよさや可能性である想像力を働かせた発想や構想、自分らしい表現が楽しめたときの充実した感情を示します。そして、このような環境にあった時に、子供は、最高の意欲を示すものであります。子供に限らずこのような状況にある時は、人全て、夢中になり、さながら遊びにおける絶頂期の状態になります。

♡子供を駆り立てたり性急さを要求しては、子供一人一人の個性的表現は望むことが出来ません。ここに、しなやかな個性的表現を可能にする創造の原点としての悠を見いだすことが出来るのです。

悠

- ・ゆったりと自己に浸る
- ・悠々とイメージの世界に浸る

つまり、教師が紹介する題材や提案に基づいて、子供は豊かに自分の経験や直感を働かせ「ゆったりと自己に浸り」「悠々とイメージの世界に浸る」ことが出来るような

- ◆表現活動の楽しさを味わうための題材の選択や開発・提案や指示の仕方の工夫
- ◆表現活動の楽しさを味わうための指導計画や指導過程の工夫

を目指さなければなりません。

♡「遊び」は子供にとって知恵を磨き、心の中から沸き上がる創造性を磨くものです。また、遊びはこころにゆとりをもたらし、心の楽しさや新たなエネルギーを生みます。そしてこの「遊び」を受け入れることにより造形活動を膨らませ、子供の可能性を無限のものとする事が出来る原点としての遊を見いだすことが出来るのです。

遊

- ・色や形・材料と楽しく遊ぶ
- ・イメージの世界で楽しく遊ぶ

つまり、子供が自分が見つけた表現の思いや感じについて、その子らしい想像力を働かせ、発想や構想をして具体的なイメージを心に描き、そのイメージを具

体化するために自分にあった表現の方法や材料などを選んで個性的な造形表現・
試行を楽しむことが出来るような

◆表現活動の楽しさを味わうための色や形・材料・イメージの世界と主体的にかかわ
り合う学習活動の工夫

を目指さなければなりません。

優

♡優しさは、全ての行為・行動・交流の源であってほしいものです。子供一人一人に寄
り添い、「優しさ」と「共感」をもって、経験の少ない子供たちに、紹介したり、提
案したり、相談したりすることは、学習活動を支えるために必要なことです。このよ
うな子供たちにとって有効なものを積極的に生かす支援の原点としての優を見いだす
ことが出来ます。

また、支援とは子供一人一人が自分らしい表現、つまり、自分らしい表現の思いを
持ち、自分らしい表現方法で工夫していくように、その願いや方向を尊重しながら子
供たちが自ら表現を進めていくことを決して先回りしないで支えていくような指導の
ことを言います。

- ・優しい声かけと見とる目
- ・優しく共感しあう心

◆表現活動の楽しさを味わうための支援を中心とした指導と評価の工夫

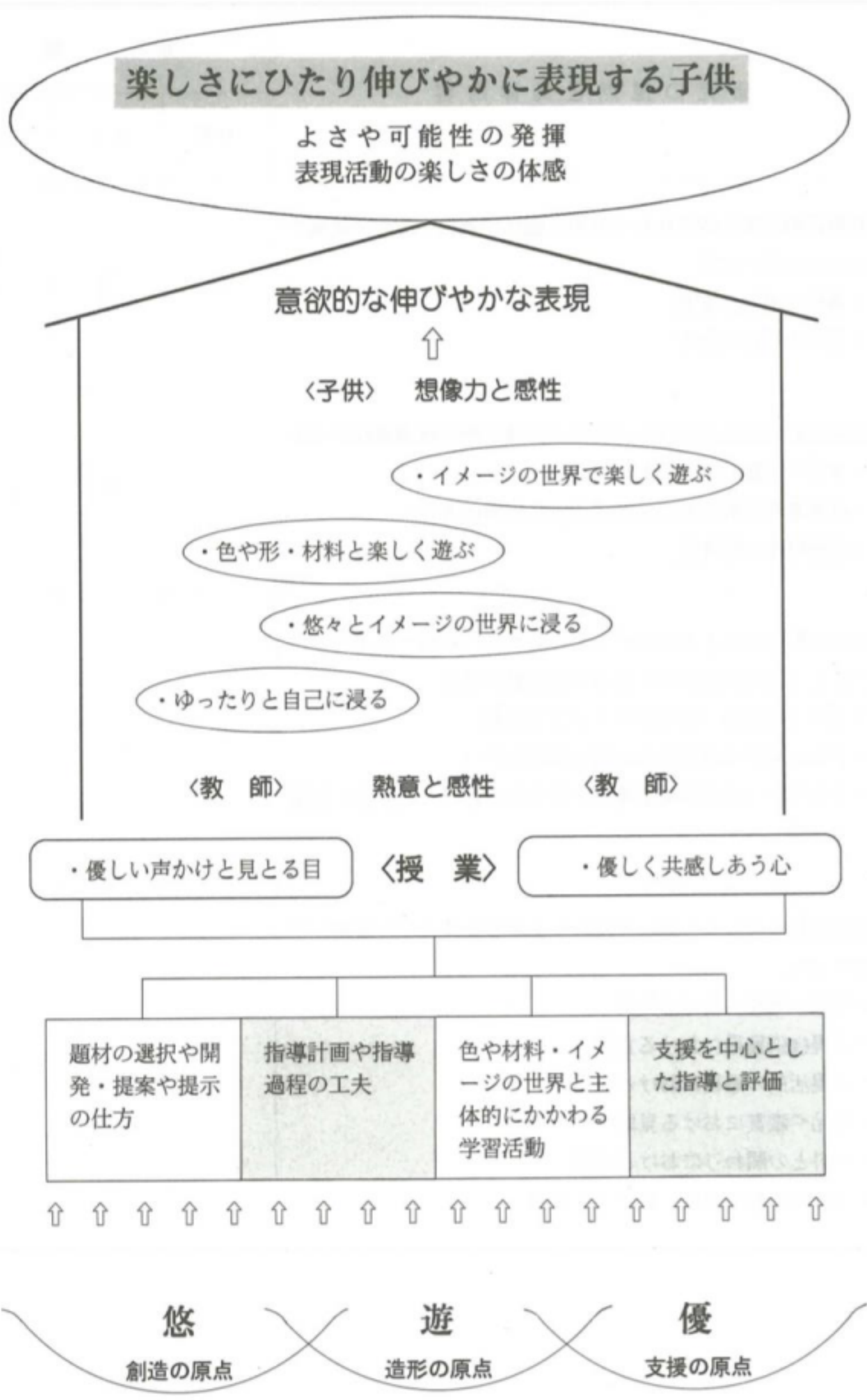
を目指さなければなりません。

4. 今次研究への願い（仮説）

子供の側に立った題材の設定や活動体験が豊富な学習計画を工夫し、共感的支援や見
取りを豊かにすることにより、造形的な創造活動の能力を高め、楽しさにひたり伸びや
かに表現する子供を育てたい。

5. 研究内容と研究計画

研究の視点と具体内容	年 度		
	9 6	9 7	9 8
<p>◆表現活動の楽しさを味わうための題材の選択や開発・提案や提示の仕方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 題材の選択や開発 ・ 提案や提示の仕方 	◎	◎	○
<p>◆表現活動の楽しさを味わうための指導計画や指導過程の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の主題や学習活動の明確化 ・ 指導過程に幅をもたせた弾力的な指導計画作り ・ 評価規準の明確化 	○	◎	○
<p>◆表現活動の楽しさを味わうための色や形・材料・イメージの世界と主体的にかかわり合う学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 材料との出会いを豊富にする学習活動 ・ 子供の発想や構想を広げる学習環境作り ・ 自分なりの表現技能を獲得するための資料や材料作りと提示方法 	◎	○	◎
<p>◆表現活動の楽しさを味わうための支援を中心とした指導と評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発想や構想を広げる支援 ・ 表現技術獲得における支援 ・ 表現活動の過程における見取り ・ 作品や鑑賞における見取り ・ 材料との関わりにおける支援 ・ 共感的理解や励ましにおける支援 	○	◎	◎



7. 克服すべき問題として

◆造形美術教育における基礎・基本

○従来の造形美術教育における基礎・基本

(基礎的・基本的事項——技能的要素が強い)

- 表現の為の技法・技術 (の指導) ……絵の具の混色の仕方・立体感の表し方 (陰影の付け方) 筆遣い・遠近感の表し方等
- 表現の為の手順・方法 (の指示) ……教師による特定の手法や手順
- 対象を再現的に表現することを最終的なねらいとする。

に重点をおいて捉える傾向が強かった。

○今日的な造形美術教育における基礎・基本

子供たち一人一人が、身近な対象などにかかわり、そこに造形的な関心や思いをもち、子供らしい想像力をはたらかせて、造形的な発想や構想をし、それにもとづいて手などをはたらかせて、形や色、材料などのよさをいかして造形を試みることが造形美術教育のねらいです。

この一連のまるごとの資質や能力を基礎・基本と考えます。その考えを、わかりやすくしたものが観点別学習状況評価の各観点項目と考えます。

◆造形への関心・意欲・態度

- ・対象等に進んで関わる
- ・手などをはたらかせて自分らしい表現をし続ける

◆発想や構想の能力

- ・対象からのイメージや経験からのイメージと想像力をはたらかせ、そのように表現するか等の構想をする

◆創造的な技能

- ・自分の表現の思いや考え等をもとに発想や構想したものを、とりあえず自分にできる技能をはたらかせ工夫し、自分の表現にふさわしい技能として高めた技能

※表現の為の技法・技術を全く必要としないわけではなく、示唆したり、提案したり、援助したり、比べさせたり、児童の気づきを大切にしながら、指導することも大切である。

◆鑑賞の能力

- ・造形的な感覚をはじめ、感性的な理解や判断の能力を言います。これは創造活動全体を通してはたらきつづける資質や能力でもあります。したがって、単に観賞活動時だけではなく、造形的な表現活動における発想や構想、創造的な技能をはたらかせる時にも、そのバックボーンとしてはたらくものです。

したがって

この4点を題材にあわせて作成した評価規準にもとづき、バランスのとれた指導を徹底することが、基礎・基盤を徹底することに繋がります。

8. 研究の具体的内容にかかわって

悠

しなやかな個性的表現を
可能にする創造の原点として

◆子供の側に立った教材や題材の工夫や開発

表現活動の楽しさを味わうための題材の選択や開発・提案や提示の仕方の工夫

自分のよさや可能性を生かす・高める
・心を豊かにすることができる教材や提案の方法

子供たち一人一人の日頃の活動の姿や
関心の傾向などイメージしながら、それが
生きるように吟味した題材や提案方法

自ら考え、主体的に判断・表現したり
することができる豊かな教材や提案の方法

基礎・基本を身につけることのできる
ように、多様な実態に応じた教材や提案
の方法

地域社会の自然や文化社会を素材とし
た教材や提案の方法

♡発想や構想を広げる題材の構築
♡子供たちに対し夢のある提案化

♡子供たちの経験に基づいた関心等の傾向把握
♡題材に関わる先行経験の取り入れ

を開発・工夫する必要がある

♡一人一人に応じた複数の例の提案や紹介
♡経験からの気づき・相談・提案による基礎・基本の定着

♡子供たちの経験に基づいた関心等（地域・家庭体験）の傾向把握

表現活動の楽しさを味わうための指導計画や指導過程の工夫

◆子供の側に立った指導計画・指導過程の工夫

自分の表現の思いや関心・態度、自分らしい発想や構想、表現の創造的な技能等を生かし高め続けることのできる指導計画や指導過程

家庭や地域における教育や体験の中で働かせたよさや可能性、自己実現のための資質や能力を取り入れることのできる指導計画や指導過程

よさや可能性、自己実現の資質や能力を育むためのねらいを他の教科との関連や連携を図ることのできる指導計画や指導過程

- ♡各題材における表現の思い・関心や意欲・発想や構想・創造的技能を生かし続ける連続性の重視
- ♡子供たちの経験に基づいた関心等（地域・家庭体験）の傾向把握

を開発・工夫する必要がある

- ♡ねらいを明確にした他教科との関連化

遊

造形活動を膨らませ、子供の可能性を無限のものとする原点として

表現活動の楽しさを味わうための色や形・材料、イメージの世界と主体的にかかわり合う学習活動の工夫

◆子供の側に立った学習活動の工夫

子供たちの表現の思いや関心の広がりを受けとめ、表現の幅を広げ、喜びを味わうことのできるような多様な材料を提示できる学習活動

子供たちのイメージを具体化するために、自分に合った表現の方法や材料・色や形との出会いを豊富にしたり、自分の表現の思いや意図をもって自分が生かしたい形や色、材料を基に自分の創造的技能を育む学習活動

- ♡必要にして十分な材料の準備や学習環境設営

を開発・工夫する必要がある

- ♡必要にして十分な用具・道具・各種機器の準備
- ♡TT方式の活用技術指導の場面だけでなく、発想や構想をする場面・まとめの場面

優

学習活動を支え、

子供を積極的に生かす支援の原点として

◆子供の側に立った支援を中心とした指導と評価の工夫

表現活動の楽しさを味わうための支援を中心とした指導と評価の工夫

子供たち一人一人が、自分の考えや感じ方など、自分が持っているよさや、可能性を発揮しながら、価値ある課題や意図などを進んで見つけたり、受け止めてたりして、それらをよりよく解決したり、自己実現的な学習活動を展開する支援を中心とする指導と評価

自己実現の過程において、子供たち一人一人が、自らのよさを一層生かすような発想や試み方などの適切な例の提案や資料などの紹介をしたりする支援を中心とした指導

子供たちのよさを生かした自己実現的な学習活動に対して、子供たちが自信をもち、さらに意欲的になるよう、可能性の発揮を誠意をもって受けとめるような共感的な支援を中心とした指導

♡個に応じて、押しつけない材料・表現方法等の紹介

♡共感的理解にたった相談や提案

を開発・工夫する必要がある

♡共感的理解にたった相談や提案

♡複数の資料紹介

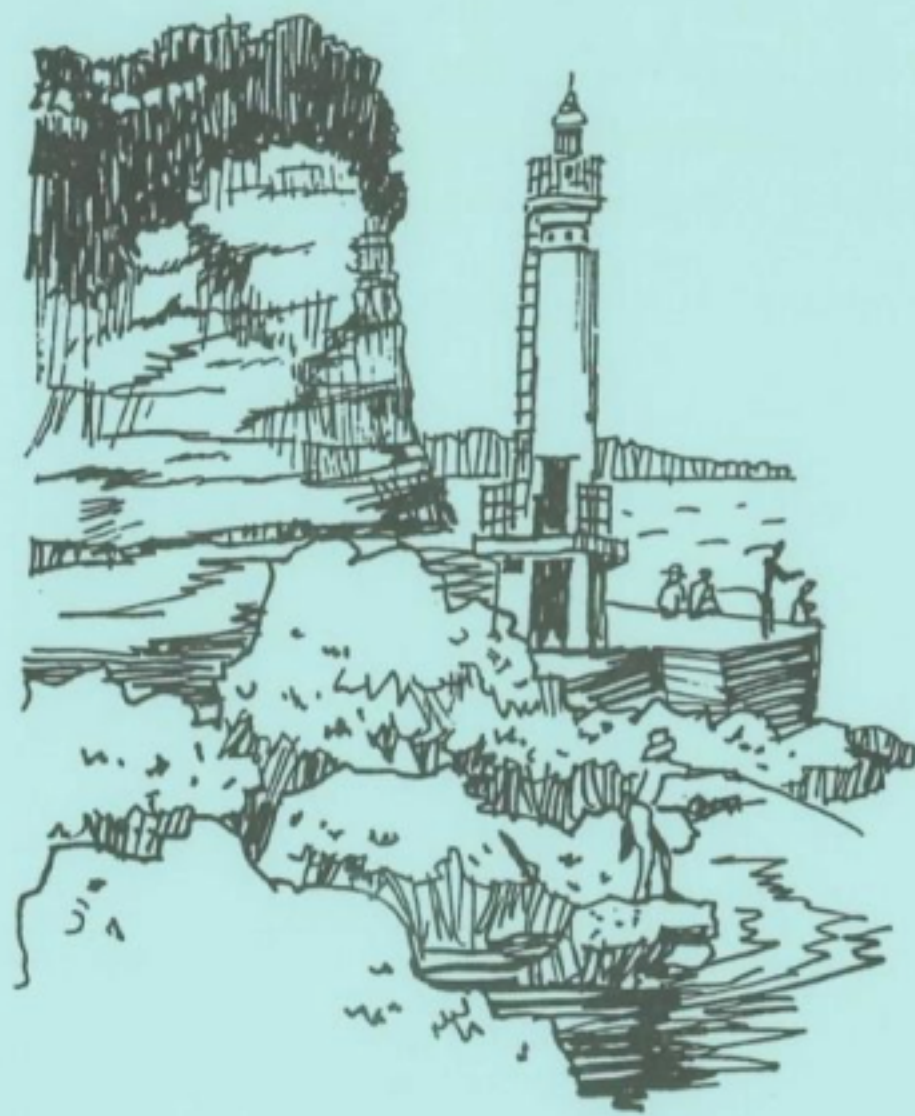
♡子供たちの心の動きを重視した適切な提案

♡賞揚的であり、断定的な話し方の回避

以上を今次研究の内容としながら、標記の研究主題「楽しさにひたり、伸びやかに表す、造形活動と、共感し寄り添う指導」に迫りたいと考えています。

そして、来年度の全道造形教育研究大会へ向けて、更なる計画・実践・評価・改善の累積によって、今日的な全道課題「子供一人一人の創造的な創造力や造形感覚、創造的な技能などの資質や能力を育成し、自分らしい表現が楽しめる指導計画及び学習指導と評価のあり方」へのアプローチも可能になると考えています。

授業概要



公開授業

校・園種	内容・分野・分科会	学 年	題 材 名	授 業 者
幼稚園	造形遊び 〈第1分科会〉	年長組	「はっけん！ ぼくらの ぼうけんじま」	宇佐美弥生・大澤助三朗 (かもめ幼稚園)
小学校	造形遊び 〈第2分科会〉	2学年	「はっぼうスチロールの へんしん」	居島順子 (留明市立緑丘小学校)
	絵や立体に表す 〈第3分科会〉	3学年	「つくろう 私たちの海」	豊崎東様 (留明市立留明小学校)
	つくりたいものをつくる 〈第4分科会〉	6学年	「よみがえれ！ ガラクタたち」	岡田加世子 (留明市立東光小学校)
中学校	絵 画 〈第5分科会〉	1学年	「イメージを誘う 不思議な形！」 ～想像の世界を表そう～	工藤 臣 (留明市立留明中学校)
	複合立体 〈第6分科会〉	2学年	「立体造形の広がり」 ～イメージしたものを 形にしよう～	金澤典子 (留明市立港南中学校)
高等学校	デザイン 〈第7分科会〉	1学年	「イメージを実現する」	岩淵章夫 (道立留明高等学校)

題材名「はっけん、ぼくらの ぼうけんじま」

指導者CT 宇佐美 弥 生

ST 大 澤 助三朗



公開保育〈第1分科会〉

私の題材観

開放感にひたった時、幼児の好奇心と想像力は実に奔放だ。なににでも変身し、どこへでも行き、なんでもできる。

先日、子どもたちは、それぞれの思いを粘土にこめて自分だけの動物を生みだした。今度は、その動物のすみかをさがす空想の旅に誘ってみたい。きっと、わくわくする冒険島があって、みんなの工夫を待っているはずだ。

研究主題とのかかわり

自分のつくった大好きな動物のすみかを求めて旅に出るという設定で子どもたちの関心を高め、冒険島を発見し、上陸した気持ちに誘いこんで造形遊びへの興味を呼び起こしたい。

そして、ごく簡略な形で置かれた冒険島を、身近で扱いやすい材料・用具をさまざまに使って、空想のおもむくままにつくり変えながら楽しむ活動がもりあがり、みんないっしょに達成感を味わうように導きたい。

そのために、結果としての作品の仕上がりにはとらわれず、ひとつの製作にこだわりつづける子や、製作の方はそこそこにして思いついた遊びに移る子など、それぞれの気持ちによりそいながら、題材から引き出されるさまざまな活動が豊かにふくらんでゆくように支援したい。

指導計画

第1次-動物を粘土でつくる(1/5~2/5)

第2次-冒険島を動物のすみかにみたと、つくって遊ぶ(3/5本時~4/5)

第3次-冒険島で動物と遊ぶ(5/5)

本時の目標と展開

【目標】◎先生の話聞き、することが分かる。

◎はりきって、思い思いにつくって遊ぶ。

◎友だちと、仲良くつくって遊ぶ

予想される活動	よさを生かす支援や環境構成と評価
<ul style="list-style-type: none"> ○「自分のつくった動物をつれて出かけよう」 <ul style="list-style-type: none"> ・することが分かって期待する。 ・互いに動物を見せ合う。 ・動物をつれて冒険島に着く。 ○「動物のすみかをつくろう」 <ul style="list-style-type: none"> ・場所や物の使い方や約束が分かる。 ・すみかの位置をきめる。 ・気にいるようにすみかをつくる。 ・思いつくままに楽しみながらする。 ・友だちと仲良くかかわる。 ○「島全体のようすをながめよう」 <ul style="list-style-type: none"> ・感じたことを話し合う。 ・つづきを楽しみにし、かたづける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○することが分かり、のり気になったか。 <ul style="list-style-type: none"> ・雰囲気づくりを大切にし、動機づける(つれていく動物を大事にするように導く)。 ・題材に引きつける工夫をする。(場の設定、提示の仕方、活動の過程) ○イメージを持ち、打ち込んで活動しているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・安全や活動のしやすさに配慮する。 ・一人ひとりの思いを汲みとって励ます。 ・とまどっている子を援助する。 ○仕方や思いが広がり、ゆずり合ったり力を合わせたりして楽しんでいるか。 <ul style="list-style-type: none"> ・材料・用具の量や種類への配慮をする。 ・よい考えやよい行いを周りに伝える。 ・困っている子に気をくばり、周りの子へ協力をうながす。

題材名「はっぼうスチロールのへんしん」

公開授業〈第2分科会〉

指導者 居 島 順 子



私の題材観

発泡スチロールには色々な形のものがあり、子どもたちの力で簡単に割ったり穴を開けたりすることもできるので、さらなる形の変化が可能である。

また大変軽く、並べたり、積んだり、組み合わせたりすることが容易にでき、接着の方法も多様であるため、子どもたちが夢中になって発想を広げながら自在に形をつくり上げていくことができるのではないかと考えた。

研究主題とのかかわり

発泡スチロールには多くの可能性がある。最初から何をつくるのかを決めて取り組むのではなく、発泡スチロールという材料に触れて生じた一人一人の発想を大事にしながら、自分らしい造形活動が展開できるように支援していきたい。子どもたちは、材料と存分に触れ合い、表現活動の楽しさにひたりながら自分の思いを広げていくことであろう。

指導計画

第1次-発泡スチロールと触れ合い、表現方法を試みる(1/2)

第2次-発泡スチロールを組み合わせたり、他の材料と組み合わせたりしながら、自分の思いを表現する(2/2本時)

本時の目標と展開

- 【目標】
- ◎進んで発泡スチロールやその他の材料に親しみ、楽しく造形活動を行うことができる。
 - ◎発泡スチロールやその他の材料と触れ合う中で、自分のつくりたいものを思い付くことができる。
 - ◎自分の思いに合わせて、表現の方法や材料の組み合わせ方を工夫することができる。
 - ◎自分や友達の表現のよさや工夫を感じ取ることができる。

予想される活動	よさを生かす支援や環境構成と評価
<ul style="list-style-type: none"> ○前時の活動を振り返り、本時の活動の見通しを持つ。 ○発泡スチロールを組み合わせたり、他の材料と組み合わせたりしながら、自分の思いを表現していく。 ○色々な材料と触れ合いながら、活動を広げていく。 ○本時の活動を振り返り、自分の活動や友達の活動のよさを認め合う。 ○協力して後片付けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちが体全体を使って造形遊びを楽しめるよう、体育館で行う。 ○道具の扱い方など安全面に留意する。 ○共に活動を楽しむ中で、一人一人の思いや活動を共感的に受け止め、活動の方向性を支援する。 ○一人一人の工夫が生かされるよう配慮する。 ○一人一人の思いを認め、活動に満足感が持てるよう配慮する。

題材名「つくろう私たちの海」

公開授業〈第3分科会〉

指導者 豊崎 東洋



私の題材観

留萌の子供にとって海は、非常に身近な存在である。その身近な海のうつくしさに目を向け、自分自身が持つ海のイメージの世界に住む生物を作り、最終的にクラス全員の作品を一つの舞台に飾り、神秘的な海の中の世界を作り上げていきたいと考えました。

海は、四季の変化にあわせてさまざまな顔を見せる。夏の海は、透き通るような青い海。冬の海は、鉛色のような暗い海。特に留萌の黄金岬の夕日に映える海の美しさは、誰もが一度は足を止め見つめる美しさである。四季の変化にあわせてさまざまな顔をみせる海は、子供達のイメージを広げる題材になるのではないだろうか。そこから自分たちのイメージする海に住む生物の造形活動を進めていきたい。

研究主題とのかかわり

導入時に海の中の魚たちが群れ泳ぐ美しい海の中の映像を見せ、また制作時には、蛍光灯に青セロファンを貼り、周りの壁に海の中の景色を描いたものを貼る。そして波の音を静かに流す。海の中の雰囲気にならせながら自分たちのイメージする海の中に住む生物を作り上げていかせたいと考えている。

また、模様付けや飾り付けに、ビー玉・モール・ビーズ・貝殻といった子供達の好奇心がわくものを用意することで、さらにイメージを広げ、制作意欲を高めたい。

指導計画

- 第1次-海のイメージを広げ、そこに住む生物の下絵を描く。(2時間)
- 第2次-紙粘土で制作し、模様付けや飾り付けをする。(4時間)
- 第3次-互いの作品を認めあい全員の作品を舞台に飾り観賞する。(1時間)

本時の目標と展開

- 【目標】◎自分の考えた海の中に住む生物を楽しみながら制作する。
- ◎制作しながら海のイメージ・生物のイメージを広げていく。

児童の活動	よさを生かす支援と評価
<ul style="list-style-type: none"> ・前時に見た映像の最初の部分だけ見る。 ・前時に描いた下絵をもとに制作をはじめ。 ・粘土で作りながらよりイメージを広げていく。 ・友達と自分の作品を話し合いながらよりイメージを広げていく。 ・本時で頑張ったことや楽しかったこと、次時で頑張りたいことなどを発表する。 ・後かたづけ 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時を振り返り今日の学習について確認する。 ○粘土の制作方法（こねる・ちぎる・丸めるなど）を確認する。 ○児童一人一人がもつイメージを認めたり励ましたりして制作意欲を高める。 ○早くできた子には、貝や石やビー玉などを見せてさらにイメージを広げ、制作意欲を高める。 ○自分のイメージを持ち制作をしている様子を感じとる。 ○個々のよさを認め次時につながるようなまとめ方をする。

題材名「よみがえれ！カラクタたち」

公開授業〈第4分科会〉

指導者 岡田 加世子



私の題材観

幼児は好んで物をこわす。そうした体験の積み上げは、それらの素材の性質を知り、構造を知るきっかけになっており、それは次に、それらのもので構成することへの出発点にもなっている。本題材では、分解活動の中から子ども達に素材に戻る過程を経験させ、取り出した素材から発想を展開し、制作していく過程を大切にしたい造形活動を展開したい。

研究主題とのかかわり

家庭の物置小屋や街角の粗大ゴミ集積場から見つけた材料をよく見たり、触れたり、分解したりすることで、自らのイメージを膨らませ、イメージの世界で遊ぶことができるよう導きたい。また、子どもたちが無理なく生き生きと興味を持って制作に取り組めるように、テーマは、メカニックな物や未来からの贈物、宇宙物を想定した。

指導計画

- 第1次－集めてきた物を工具を使って分解する。 (2時間)
- 第2次－分解した部品で、考えたものをつくる。 (2時間)
- 第3次－途中で作品発表をし、感想を話し合う。 (1時間)
- 第4次－感想を考慮して作品を完成させる。(本時6/7・2時間)

本時の目標と展開

【目標】◎感想を考慮して自分がイメージした思いを表現する。

児童の活動	よさを生かす支援と評価
<ul style="list-style-type: none"> ○感想や意見を聞いて改良することにした部分を発表する。 ○つけ加えたいところ、改良を加えるところを作る。 ○樹脂絵の具、油性ペンなどで色をつけたり、かいたりする。 ○完成したグループがあれば記念写真をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○改良部分を確認させる。 ○接合部分がしっかりしているか見て回る。 ○思いに合った色や用具を使うよう支援する。 ○作品のよさを語る。

題材名「イメージを誘う不思議な形」
～想像の世界を表そう～

公開授業〈第5分科会〉

指導者 工藤 臣



私の題材観

中学生になるとものの見方・感じ方は客観的になり、表現では写實的欲求が占めるため自己の作品に対する評価も厳しいものとなる。そこから苦手意識が生じ、のびのびと表すことができない生徒もいる。楽しさにひたり伸びやかに表しながら、ものの見方・感じ方を深め表す力を育みたい。本題材では、偶然によってできた形や色を材料にすることにより「こんな感じがする、こんな印象がもてた。」という具合に、生徒個々の思いや願いを肯定的に表現できるものとする。また偶然の形をきっかけとし、その上にさらに筆を加えていくことで自分のイメージの世界を築き上げることができるだろう。積極的な表現活動を行っていくためには、主題を深めていく力が必要である。各種の道具を使いながら得たおもしろい形や色を発想の媒体とすることで主題を深めたい。また、偶然によって得られた効果には、その形や色の混ざり具合が新鮮でリアリティーのあるものが少なくない。この特性を生かし、客観的なものの見方・感じ方、そして子供たちが自ら期待する画面を築いていくステップとして題材に取り組むたい。

研究主題とのかかわり

造形への誘い—悠—遊—優—留明へ

～楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と、共感し寄り添う指導～

各種技法を使って偶然にできた形をもとに、イメージして主題を決めることにより、生徒のイマジネーションを広い世界にはばたかせることになるだろう。また、イメージによる思考、視覚的な思考が創造的な構想に重要な役割を果たすことにもつながり、生徒たちは自由でのびのびとした独自の表現活動をすすめることができるものとする。

生徒がのびのびとイメージし楽しく造形活動をしていくためには、作品をどのようにつくっていくかということよりも、つくっていく過程での生徒の姿を見つめていくことが大切である。そのためにも制作過程でのふれあいを重視し適切な方向づけや誘いかけを有効に進めていきたい。

指導計画

- 第1次—各種技法を体験し、偶然によって得られた色・形から主題を発想する。(6時間)
- 第2次—イメージを構成しながら画面を築き上げていく。(7時間)
- 第3次—完成作品を観賞し、互いに自由な発想を交流する。(1時間)

本時の目標と展開

【目標】◎構想をもとに実現したい主題を、色や形を工夫してひとつの画面にまとめることができる。

生徒の活動	よさを生かす支援と評価
<p>○イメージを構成しよう！</p> <p>・作品の土台となる画用紙の上で、前時の構想をもとにこれまで実験的に表してきた形を貼り合わせたり、新たに筆を加えたりと体験してきた各種技法をどんどん用いながら想像の世界を築き上げていく。</p> <p>「画面のこの部分には こんな形がほしいな！」 「これを使ってみよう！」 「もう一度あのやり方でやってみよう！」</p>	<p>○これまで用いた用具はすべて準備しておく。</p> <p>○個々の表現の方向性を支援する。特につまづいている生徒に対し支援する。 「これは・この部分はこんな風に見てもいいのでは？」</p> <p>○構想をもとに表現したい主題を、色や形を工夫してひとつの画面にまとめることができる。</p> <p>○次時の活動に期待感が持てるよう配慮する。</p>

題材名『立体造形の広がり』
～イメージしたものを形にしよう～



公開授業〈第6分科会〉

指導者 金澤典子

私の題材感

これまでの授業は、絵画・彫刻・デザイン・工芸というような分野で分けて行ってきた。しかし、小学校でいう造形遊びにあるように、中学校でも分野を越えた表現活動が行われるようになってきている。絵画や彫刻といったジャンルを越えて自由にイメージを広げてそれを表現することは、理屈ではない美術の楽しさを味わうことと考える。ここでは立体的な造形活動を、枠にとらわれない自由な活動として取り上げてみたい。この自由な活動とは、材料を自由に選択するということと、一人一人の思いの中で生まれたイメージを大切にしていきたいということである。また、イメージにあった材料を選択してものをつくるということから、手順を追って物事を考え、楽しく最後まであきらめずに作品制作に取り組み、自分の作品に対しての愛着心を育てるとともに、自分の生活の身の回りに関心を持ち、様々な角度からものを見たり、ものを大切に作る心を育てたい。

研究主題とのかかわり

- 研究主題「造形への誘いー悠・遊・優ー留萌へ」
～楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と、共感し寄り添う指導～
- 「悠」遊びの楽しさを味わうための題材の工夫や提示の仕方について
- ◎立体的な造形活動を従来の枠にとらわれない自由な活動として取り上げることで、生徒は個性的で伸び伸びした表現活動を進めることができるであろう。
- 「悠」表現活動の楽しさを味わうための指導計画や指導過程の工夫について
- ◎学習指導や作業の流れを常に意識させて活動させることで、自分のイメージしたものに近づくための見直しや修正をしていくものとする。
- 「遊」活動の楽しさを味わうための色や形・材料・イメージの世界と主体的に関わり合う学習活動の工夫について
- ◎自分のイメージにあった材料を選び、様々な材料との関わりの中で思いが触発されてイメージが広がり、さらに新たな表現方法を見つけだすことになるだろう。
- 「優」表現活動の楽しさを味わうための支援を中心とした指導と評価の工夫について
- ◎生徒の制作活動や構想・発想がどのように作品に発展したかを把握し、制作過程における努力や工夫を評価するために、学習計画表による評価だけでなく生徒同士が作品を鑑賞しあう場を設定し、制作活動全体を総合的に評価していきたい。

指導計画

- 第1次 自由にイメージして材料を考え、制作計画を立てる (2時間)
- 第2次 表現意図に応じて計画的に作業を進め、主体的に活動する (7時間)
- 第3次 立体物の良さを深く味わい、周囲との調和の大切さを感じ取る (1時間)

本時の目標と展開

- 【目標】 作業の流れを確認し、用具を正しく安全に使い、材料を加工したりするなどして工夫・手直ししていくことができる。
(美術への関心・意欲・態度) (発想や構想の能力) (創造的な技能)

生徒の活動	よさを生かす支援と評価
<ul style="list-style-type: none"> ・前の時間を振り返る ・今日の自分の計画を確認し、発表する ・学習課題の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・素直な思いを発表できる様な雰囲気作りをする ・発表を聞くことでイメージを深めさせる (評価) 見通しをもち、作業計画を確認することができる
<p>イメージに近づける工夫をしよう!</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・用具、材料の確認 ・工夫し、手直ししながら、見直しをもって完成に向けて作業を進める ・今日の作業を振り返り、次時の計画を発表する ・まとめと自己評価 ・次時の見直しをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな材料を用意し、イメージ通りにできるように配慮する (評価) イメージに近づけようと工夫して表現することができる ・発表や作品を見聞きし、良さや面白さを感じ取らせる (評価) 他の作品の良さや面白さを感じ取ることができたか



題材名「イメージを表現する」

公開授業〈第7分科会〉

指導者 岩 渕 章 夫

題材観

授業で「イメージを表現する」を10年間毎年行ってみて「おとなしい絵が多くなった」「3つのちがう内容のイメージ表現であっても同じような絵を描く」「絵で伝えるという気持ちがあうすい」など、ほどほどの平均的な作品を描く生徒が増えてきているように思われます。特に目に見えるものをそのまま、ことばとか具体的なものによる説明的な絵であれば描くことができるのですが、「感じたもの」を「感じ」で「表現」となると考え込むばかりで何を描いたらいいのかわからなくなるようです。イメージ表現というテーマでの作品制作を通して、生徒自ら自身を見つめなおす機会になればと期待しています。

研究主題との関わり

思い返してみる、考える、それらを絵に表してみるという活動が日常の諸々に心抑えて追われるなかでひととき足を止め、ゆったりとした時間、楽しみな時間と感じてもらえればと考えます。特に、もやもやとしてみえなかったものが少しずつ形や色となり目の前にあらわれていく過程に関わる喜びを味わってほしいと思います。

指導計画

総数時間	(26時間)
1. アイディアスケッチを練る	(8時間)
2. パネルの水張り	(2時間)
3. 下描き	(6時間)
4. 画材やトーンの練習	(2時間)
5. 色を入れる	(8時間)

本時の目標と展開

【目標】 アイディアスケッチを練る 6時間目

児童の活動	よさを生かす支援と評価
1. 説明確認 ○各イメージの表現について 2. アイディアスケッチを練る ○任意に3分割した画面に「派手」「軽やか」「重々しい」のイメージをデザイン構成し、B3パネルにポスターカラーでトーンを使っての作品制作で、本時はアイディアスケッチを行います。3画面ともちがう各イメージをことばや具体的なものによる説明をさけて、強く表現するにはどのような画面の構成にしたらいかがを試行錯誤しながらスケッチブックに鉛筆でアイディアを練っています。 3. 説明確認 ○各イメージの表現のまとめについて 4. かたづけ	<ul style="list-style-type: none"> ・「派手」「軽やか」「重々しい」の各イメージを強く表現するためには、どのような画面の工夫が必要なのかを考えさせ、3画面が似てきていないか確認させる。 ・3画面のちがいを強調させる。あいまいなどちらともとれる表現に手を入れさせる。 ・具体的なものによる表現は単純化するよう促す。 ・いいものがでたら、発展するようみのがさず指導。 ・おおよその方向がきまったら、全体と細部のバランスを考えて画面の構成をさせる。 ・画面構成でいいものがでてきた場合、ほめると同時にさらによくなるようなよいアドバイスをします。 ・個別指導が全体指導につながるよう工夫する。 ・全体に共通した課題を取り上げ、各自どう取り組むのか考えさせ、まとめとする。

提要概要



第48回全道造形教育研究大会・留萌大会分科会構成

分科会	1	2	3	4
内 容	造形遊び 「はっけん、ぼくらのぼうけんじま」	造形遊び 「はっぼうスチロールのへんしん」	絵や立体に表す 「つくろう 私たちの海」	つくりたいものをつくる 「よみがえれ！ ガラクタたち」
授 業 者	CT ST 宇佐美弥生・大澤助三朗 ★かもめ幼稚園 年長組	居 島 順 子 ★緑丘小・第2学年	豊 崎 東 洋 ★留萌小・第3学年	岡 田 加 世 子 ★東光小・第6学年
提 言 者	森 美由紀 札幌 いなづみ幼稚園 原 良 三 旭川 わかば幼稚園長	柿 崎 雄 二 函館市立中の沢小学校 松 田 恭 子 増毛町立増毛町小学校	合 田 里 美 歌志内市立西小学校 山 室 ゆかり 札幌市立西岡南小学校	近 藤 靖 子 帯広市立開西小学校 塩 田 晃 天塩町立天塩小学校
司 会 者	中 本 真美子 北広島市大地太陽幼稚園 渡 辺 貞 之 深川市立深川小学校	野 島 操 小平町立本郷小学校 宮 森 俊 治 苫小牧市立美園小学校	伊 藤 優 子 羽幌町立羽幌小学校 谷 口 光 伸 乙部町立乙部小学校	衰 島 裕 二 恵庭市立和光小学校 北 村 哲 朗 室蘭市立八丁平小学校
助 言 者	伊 藤 善 彬 札幌パール幼稚園長	成 田 慎 司 名寄市立名寄東中学校 松 田 信 幸 帯広私立豊成小学校	藤 井 昭 夫 函館市立弥生小学校校長 阿 武 勝 美 余市町立登小学校長	山 口 長 伸 中標津町立計根別小学校長 鈴 木 文 雄 虻田町立虻田小学校長
記 録 者	鈴 木 亜 美 かもめ幼稚園	佐々木 忍 留萌市立藤山小学校	高 橋 香 増毛町立増毛小学校	小 西 共 美 羽幌町立羽幌小学校
運 営 委 員	立 花 陽 子 苫前町立古丹別小学校	秋 元 のぞみ 留萌市立緑丘小学校	滝 本 郁 子 羽幌町立羽幌小学校	横 溝 裕美子 天塩町立円山小学校

分科会	5	6	7	
内 容	絵 画 「イメージを誘う不思議な形」～想像の世界を表そう～	複合立体 「立体造形の広がり」～イメージしたものを形にしよう～	デザイン 「イメージを表現する」	
授 業 者	工 藤 臣 ★留萌中・第1学年	金 澤 典 子 ★港南中・第2学年	★岩 淵 章 夫 ★留萌高・第1学年	
提 言 者	常 盤 欣 也 壮瞥町立壮瞥中学校 高 橋 潤 鶴居村立鶴居中学校	安 田 仁 昭 札幌市立西岡北中学校 小 笠 原 愛 恵庭市立恵庭中学校	板 東 宏 哉 札幌手稲高等学校	
司 会 者	梅 原 賢 伸 羽幌町立羽幌中学校 岩 館 こずえ 函館市立旭岡中学校	根 岸 邦 昌 芽室町立芽室西中学校 原 田 菊 枝 留萌市立港南中学校	寺 腰 精 司 旭川凌雲高等学校	
助 言 者	阿 部 賢 一 奥部町奥部中学校長 大 月 猛 苫小牧市立啓明中学校	多 田 絃 一 札幌市立もみじ台南中学校長 大 口 優 旭川市立鷹栖中学校	開 沼 英 則 札幌東陵高等学校	
記 録 者	村 元 隆 一 羽幌町立羽幌小学校	松 岡 宏 悦 留萌市立潮静小学校	日 下 智 子 小平高等養護学校	
運 営 委 員	室 谷 雄 一 初山別村立初山別小学校	松 永 直 子 羽幌町立羽幌小学校	安 藤 和 也 羽幌高等学校	

題材名「作って遊ぼう！」



〈第1分科会提言〉

指導者 森 美由紀

はじめに
(指導観)

1. 造形遊びについて

幼児にとって、幼稚園で過ごす生活そのものが遊びである。ままごとを例にとってみると最初は積木で家を作り、しだいにままごと道具や布団等。身近にあるいろいろなものをその中に取り込んでいく。そして、ある程度必要なものが揃うと、自然物や粘土等で食べ物を作ったり、遊びに必要なものを自分たちで作りはじめ。

「造る」ということは、幼児の生活とは切り離すことができない大切な“遊び”である。幼児一人一人の思いを受け止め、どうやってそれを表現していくかを、幼児と共に活動しながら、いかに幼児が自分でやったという満足感や充実感を味わえるか、またやりたいという気持ちをもてるか等、環境・支援の仕方を通して考えていきたい。

実践の概要

2. 研究の内容

- ① 幼児の遊んでいる様子から、一人一人の思いを読み取り、支援のあり方を探る。
- ② 先行経験を生かしながら、遊びに加わった新しい要素や遊びの変化などを見極め、幼児自身が自分で気づき、工夫していけるようにするためには、どうしたらよいかを探る。

◇研究実践 「おみせやさんをやりたい！」

年長組になって間もなく、女兒数名が「おみせやさんをやりたい」「おみせやさんやってもいい？」と言うので「なんのおみせをやるの？」というとき、顔を見合いながら「果物屋さん」と言う。

幼児の願い⇒幼児の要求（お花紙・トイレットペーパー・セロテープ）
⇒環境構成作り⇒再現・遊び・活動・気づき⇒発展・更なる気づき

考察と課題
そして纏め

幼児は遊びを「再現」することでいろいろな発見をしている。その発見や、気づきを大切に、教師も共感しながら、そこに自分達のアドバイスを入れながら、どうやって遊びを進めるかということが課題となっていく。年少組の時には、受け身で遊びに参加することが多いが、その時の経験が、自分が再現する時のベースとなる大切な場である。年長組になった時、遊びに対して受け身だったり、教師からのアドバイスを待っているのではなく、少し困難なことにも、積極的に取り組む気持ちを育むような支援が大切と考える。また幼児の思いを確かめながら一緒に準備をしていくことも幼児の意欲を高めていくことに必要な事だと考えている。「楽しかった」「またやりたい」という気持ちをもてるように、これからも考えていきたいものだと思っている。

内容「造形遊び」

学校法人 旭川緑が丘学園・わかば幼稚園

題材名『つくって あそぼう』

〈第1分科会提言〉

主教 佐藤公文、教諭 秋山香奈

指導者 教諭 石橋道代・笠井聡枝・臼杵明子

教諭 八柳亜希・山田祥代、園長 原 良三



はじめに

元気なわかばっ子たちを、8コースの親もとへそれぞれ送りとどけた放課後、雨で一日のびてしまった花火大会の準備をしているときです。

7月の強い雨あとの残るグラウンドで、「おだんご」を見つけました。雨水をたっぷり含み、そのあと夏の太陽の光と適度な温度で、ちょうど握りやすくなったグラウンドの土(自然のくれたねんど)で出来た「おだんご」が、ずらりと二列並んでいるのです。よく見ると「おだんご」の列のすぐそばの土は、その素材に使われたとみえ、大きなへこみができています。さらに、グラウンドのあちこちには土をかきとった手や指のあともたくさんついています。きっと、天気回復した午後の「わくわくタイム」につくって遊んだあとなのです。かわいらしい嬉しい作品発表です。



さらに、グラウンドのあちこちには土をかきとった手や指のあともたくさんついています。きっと、天気回復した午後の「わくわくタイム」につくって遊んだあとなのです。かわいらしい嬉しい作品発表です。

* わかばっ子は、「もっと、知り(できるようになり、良くなり)たい」という自己表現欲求(自己教育力)や願い、「よし、今度こそは、/」という自己再生欲求(自己教育力)や願いを持つ、「レッテルのないおたのしみかんずめ」のような存在です。これらわかばっ子の欲求や願いを、手立てを創り、発動させていくのが教師です。

実践の概要

1. わかばっ子と造形あそび

「猿が人間になるについての労働の役割(エンゲルス)」によるまでもなく、人間が人間になったのは、二足直立歩行によって開放された「手のはたらき」が出発であり、「手は、突出した脳である」といわれるように、大脳の発達が進められ、今のような人間に進化発達することができたのです。

わかばっ子の「つくってあそぶ」あそびは、このような人類の原始的体験そのもので、人間の根源をつくる貴重な体験です。彼等は、本能的ともいえる自己表現欲求や願いによってつくったり、かいたりすることを、自然に遊びのなかに取り入れます。

2. 造形あそび、取り組みの視点

* 自分の目で見、耳で聞き、手で触れ、心で思い、頭で考え、行動したり、つくったり、かいたりなど、しなやかな体験を重ねさせる。(本園指導上の配慮事項の(2))

3. 造形あそび、取り組みの内容

- (1) わくわくタイムでの造形あそび
- (2) 教育課程での造形あそび
- (3) 教育TV視聴での造形あそび
- (4) 園行事等での造形あそび
- (5) その他の造形あそび



4. わかばっ子の1日(*第1・3・4水曜日、及び第1・3土曜日は11:30よりコース別集団徒歩降園 *第2・4土曜日休日)

8:40	9:00	10:00	11:40	12:30	14:00
保護者と徒歩登園	朝のわくわくタイム	朝の会 のびのびタイム	昼 食	午後のわくわくタイム	コース別集団徒歩降園

考察と課題

ものの豊かさや便利さのなかで「子どもたちの手や体のはたらきや動きが、極めてぎこちなくなり、伴って、感情や心が衰え、人や自然、もの(現象)やこと(事象)とのかかわりが途絶え、耐え抜く心、思いやりの心、遊びや学びへの知的欲求どころか、生きる意欲まで喪失させている」ような状況や姿が、今、はだして歓声を挙げ、生き生きと元気なわかばっ子からも実感されます。手と頭、体の協応を通してつくり、あそび、意欲と自信、そして喜びと感動で、わかばっ子の心を満たす毎日にしていきたいと考えています。

題材名「ぼくの夢、わたしの夢」



〈第2分科会提言〉

指導者 柿崎 雄二

私の題材観

子どもは遊びを通してさまざまなものを学び、学びながら育っていく。従来幼稚園で行われてきた造形遊びが、小学校へ導入された背景には何があるのだろうか。造形遊びは、活動が限定されない。つまり、指導する側の子どもへの要求やおしつけがない。そのため子どもたちは、造形遊びを通して、子ども本来の遊ぶ活動をする。遊びの中から、さまざまなルールを身につけていく。

造形遊びとは、子どもの主体的な力を誘発する活動であり、材料や場に主体的に関わって、その中に自己実現を図る活動でもある。したがって、活動そのものに意味と価値を求めるものであり、目的の定まった作品づくりのための活動ではない。

また、造形遊びでは、子どもに材料と場と時間を十分に保障することが大切になってくる。そのため、材料は数量も種類も豊富に準備し、その扱いは、ねらいを決めずに行う。そして、豊かな発想を生かすために、道具は必要に応じて使用できるように支援をする。また、造形遊びは場や環境に大きな影響を受ける。活動場所は、いつもより広くて便利な理科室を選定した。授業時間はゆとりが必要であるため、3時間続きに設定して弾力的に運用した。

造形遊びのようなゆとりある造形教育活動が、これからの図工・美術教育の在り方を考えるうえで、さらに重要な鍵を握ることになると考える。

研究主題とのかかわり

一般に、低学年の子どもは、のびのびと造形活動を楽しむ傾向にある。そして、中学年になると、客観的なものの見方ができるようになり、作品の技術的なものに目が向くようになる。この頃から、自分のもっているイメージと表現（作品）とのギャップに苦しむようになり、表現への自信がもてなくなるようになっていく傾向が見られる。さらに、子どもたち一人一人の発達段階は違うことは明らかである。そのため、個の思いを生かすような支援が必要になってくる。そこで、低学年の造形遊びのように、思いのままに活動を楽しむことを大切にしたい。そのことが、一人一人が意欲をもって自分の表現を追求させ、造形活動の喜びや基礎的な能力を高めさせることへとつながってくると考える。

また、造形遊びでは、事前の材料集めの段階が大切になってくる。指導者の最初のなげかけの言葉によって、子どもの活動の方向がきめられてしまうと言っても過言ではない。活動の過程が多様化するような素材と内容をよく考え、言葉を吟味する必要がある。

指導計画

事前—それぞれが身近にある廃材の中から、材料集めをする。
本時—造形遊び。
事後—感想をまとめる。

本時の目標と展開

【目標】◎集めた材料の中から、選んだり、組み合わせたりしながら遊ぶ。
◎思いのままに、新しいものを作り出す喜びを味わう。

予想される活動	よさを生かす支援や環境構成と評価
<ul style="list-style-type: none"> ○たくさん集めてきた材料を見せ合う。 ○「～をつくってみたい。」 ○「～で遊んでみたい。」 ○「すぐやりたい。」 ○遊びのルールを話し合う。 ◎集めた材料の中から、選んだり、組み合わせたりしながら考える。 ◎いろいろな材料を使ってつくる。 ○この時間の感想をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「廃材にも、おもしろい形や色のきれいなものがあるんだね。」 ○児童の活動を促すような言葉がけをする。「何でも自由に作ってみよう。」 ○道具の安全な使い方や後始末について考えさせる。 ◎「おもしろい組み合わせだね。」 ○材料コーナーなどをつくっておき、不足の材料や道具を自由に補う。 ◎「すごいものができたね。」 ○「どんな工夫をしたのかな。」 ○材料の形を変える場合、加工の仕方や道具の安全な使い方についての支援をする。 ○「楽しくできたね。また、やりたいね。」

題材名『光の世界へ行こう』

～イメージの世界にひたり、伸びやかに活動す造形遊び～

〈第2分科会提言〉

指導者 松田 恭子



はじめに

コピー機や印刷機、パソコン、OHPなど、学校にはハイテクを生かした様々な機器がおり、それらが動いている様子を見ているときの子どもたちの目は、好奇心にあふれている。しかし、それらの機器が図工科の中で利用されることは極めて少ないのではないだろうか。

そこで、普段の学習で補助的な役割をしているOHPに着目し、自分たちが作ったものが大きく映し出されることで、子どもたちはより興味や関心を高めるのではないかと考え、題材を設定した。

また、TPシートにスタンドガラス用絵の具やサインペンで絵や模様を描いたり、色セロハンを貼ったりして、壁やスクリーンに大きく映し出すと、今まで体験したことがないような不思議な世界が誕生する。そのような中で、友達の作品と重ねて映してみたり、作品が映し出されているスクリーンの前に立ったりして、楽しく活動しながら制作を進めさせたいと考えている。

この題材では、子どもたち自身が光と闇を実際に体感することでイメージが膨らみ、表現方法が次々に生み出されてくるであろうと期待している。

実践の概要

～指導計画～

段階	時間	児童の活動	よさを生かす支援と評価
発想から構想へ	1	<ul style="list-style-type: none"> ○暗やみで光を使ったり、光を感じた経験を話し合う。 ・映画や星座など ○OHPを使った活動を知ることを知る。 ○OHPに身の回りにあるものをのせて投影すると、スクリーンや壁面に大きく映し出される特徴を理解し、興味をもつ。 ○映し出される形が黒い影ばかりであることに気づき、色を投影する方法はないか考える。 ○TPシートなどに絵の具やサインペンで絵を描いたり、色セロハンを貼ったりすることで、様々な光の世界を作り出すことができることを知る。 ○小さなTPシートや透明バックなどに絵の具や色セロハンを試して映してみながら、次時の活動に期待を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●視聴覚室の中を暗くし、イメージを膨らませる。 ●OHPの使用の仕方や、活動についての安全について留意させる。 ●OHPは少人数で1台ずつ使えるように準備し、作業をしやすくする。 ●身の回りにはさみやセロハンテープなどを準備し、スクリーンや壁面に映し出されるシルエットを楽しめるようにする。 ●色をつけるものとして、絵の具やサインペン、色セロハンなどがあることに気づかせる。 ●TPシートに線や形を描きながら、スタンドガラス用絵の具を紹介する。 ●TPシート以外にも透明なもの（卵のバックなど）も準備しておく。 ●次時は、様々な材料を使いながら、光の世界を作り出す活動することを知らせる。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○映し方で工夫することはないか考える。 ・重なる ・並べる ・ぼかす ・動かす ・大きくしたり、小さくしたり ○いろいろな映し方を楽しみながら、手直ししたり、さらに工夫したりして制作を進める。 ○絵が映し出されているスクリーンの前に立ったりして、自分が実際に光の国に行ったような気分を味わう。 ○出来上がった作品を、視聴覚室の壁や天井など、あらゆる場所に投影して楽しむ。 ○今回の活動全体を通して、自己評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●OHPの使用の仕方を備に応じて支援する。 ●遊びが広がる上で、友達と一緒に活動することも認めていく。 こんなふうになりたいという自分なりの発想を広げ、手直ししたり、新たな工夫をしたりして取り組んでいる姿を見取り評価する。 スクリーンに映し出された作品の中に立ったり、映し方を工夫したりして、それぞれの作品のよさを見つけようとしている姿を感じ取り評価する。 視聴覚室のあらゆる場所に投影したりする活動を楽しんでいる姿を見取り、評価する。 ●ふりかえりカードを準備し、児童の活動を大切にするまとめ方をする。

考察と課題

- この題材では、できあがったものを作品ととらえるのではなく、「子どもたち自身がいろいろな材料を使って制作し、映し出すことを楽しむことができる」ということが大きなねらいであった。その点では、上手・下手という束縛から解放され、全体を通して楽しく活動できたのではないかと考えている。
- 「すてきなところを見つけよう」という観賞用プリントを準備したが、お互いに見せあうことで楽しみ、喜んでいたので、活動を止めてまで書かせる必要があったかどうか疑問である。実際、かなり無理があったように感じている。また、自分の作品ばかりに熱中して、友達の作品を見る機会を充分保障されなかった児童もいたので、お互いを認め合う場面作りの設定も課題として残った。
- 場所・作業する時間・材料・用具などをできる限り準備し、支援してあげたのだが、スタンドガラス用絵の具やOHPシート・色セロハンなどを購入することで材料費がかなりかかってしまい、いつでも気軽にできる題材というわけにはいなくなってしまった。
- 造形遊びとは、造形的素材（具体的素材）を使いながら遊ぶことである。一般的な「遊びと造形教育でいう「遊び」とは違う。子どもたちが真剣に遊び、その中の様々な体験で発想が広がる。夢中になって遊ぶ中に個性を伸ばすものが含まれており、また様々な材料を選ぶことも個性の伸長につながるのではないかと考える。作品主義に陥らず、活動（遊び）を大切にすることの難しさを、今回の実践で十分感じさせられた。

題材名『からだまるごと素材』

～スクリブルからインスタレーションへ～

〈第2分科会提言〉

指導者 合田里美



はじめに
題材観と
児童の実態

子どもは生活におけるさまざまな振る舞いの中で、常に表現者である。一人一人の衣食住の習慣の違いや趣味、言葉のとらえ方、会話の仕方…全て人、一人を焦点化して見れば見るほど、既に「個性的」なのである。しかし、図工美術教育において特に個性を大切にす教科としてその役割について考えると、まず①自分にしかない表現ができること、②その表現行為によって本人が、満足または納得が得られること、そして③作品を通じて互いをさらに理解しあうこと、図工美術のやくわりではないか。なぜかという、人と人とは日常生活の場面で相手や自分の関係がある程度理解し、位置づけることによって納得し、その関わりを自分の生活に取り入れて過ごしている。しかし、そんな中で時々トラブルや発見、驚きなど心の中に「混乱」と思われる事象が起きる。それは自分なりの関係や理解の仕方が、表面的であったということなのだが、このような『自分と他者のかかわりの理解』は大人だけでなく、子どもにとっても自分や友達を理解しながら、心豊かに成長して行く上で、とても重要な課題である。『自分と他者のかかわりの理解』という課題に対して、現代の教育問題の共通語に「こころの問題・いじめ」などがあるが…私の担任している児童の中でも、自分の思いや考えを相手に伝える事にとまどい、友達関係の悩みなどを抱えている子どもが多いのが現実である。そこで小学図工の「絵や立体で表す」という領域は、子どもの思考を絵や立体にぶつけたり、封じ込めることによって、言葉を越えた感覚的、直感的な相互理解を可能にし、「自分と自分、自分と他人とのコミュニケーション」の力を向上させるという点で役立つ。それは、例えば音楽や美術、スポーツなどは言葉が通じない異国人同士でも共感したり、関心したりできることと類似している。

そこで題材設定について、留意したいのが「子どもの思いをぶつけられる、熱中して取り組める」こと、「教師の主観（教師が一個人としての発想、「わたしならこう表現する」的なこと）を押しつけない」ことが大切である。さらに「一人一人がある程度はばをもって解釈できるような、ゆとりのある題材」が望ましい。それによって子ども一人一人が個性のにじみでた、満足感のある作品づくりにつながり、鑑賞でも互いに大変興味深く、違いを素直に見られるからである。指導にあたっては、現在の教師自身の感覚で新しい題材を自ら経験するなどして、実践的知識を積み上げる分、題材を子どもに伝えるときの説得力になるので、重要な「準備」である。

実践の概要
と 考 査

「絵や立体にあらわす」の領域で、ここではいろいろな行為、遊びの中に新しい自分の表現を発見させていく。スクリブルとは「いたずら書き、落書き」の意味である。それはいろいろな現実・非現実のものを思う存分描くことでもある。まず例えば、思いっきり線を描く練習として「スケッチブックの上に鉛筆で思いっきり線を描き続けよう、1分間」とする。子どもたちは鉛筆の線が紙が真っ黒になるまでぐるぐると線を描き続ける。描いているうちに力が入り過ぎて、表面が破れている子どもも数名でる。合図の後、その線の集積に対し題名をつけさせると「あらし」「地ごく」「5年ぶりに描いた私の絵」「ぐるぐる線」「ぐちゃぐちゃ」…さまざまに命名する。これをクラスで鑑賞し合う。その一見無意味に見える線は同じ言葉から解釈してスタートしたが、一人一人の線の形、勢いなどすべて違って見える。後からつけた題名がさらにその捉え方の違いを浮き立たせて見せる。他にも「『怒り』を描いてみよう」、「ぐるぐるの線で友達の顔をかいてみよう」等。するとはじめは「目や鼻はつなげて描けないよー」等と戸惑うが、すぐに自分なりにその意味を解釈して、勢いよく自由に線をスケッチブックの上に走らせていく。感想は「描いているときはすごーく怒った気持ちだったけど、終わったらすっきりした」「いつもと違った感じに描けた。おもしろかった」「思いっきり自分の怒りを出せた」「これはぼくの怒りです」など、子ども達の言葉から精一杯描ききったようすがうかがわれた。このように一人一人の思いで違ってくるもの、いろいろな「目に見えないもの」を描かせてみると、描くと言う行為が素直になってくる。それによって自分の気持ちがその中に封じ込めやすくなり、表現することを通して心身に満足感を与えるのである。

次に、インスタレーションについて「取り付けること、設置すること」が元の意味であるが、ここでは野原・中庭など屋外の空間に草や花、木の枝、石その他諸々の自然の素材を使って作品づくりをする。日常生活のなかで特に意識していなくても自然との関わりはある。しかし、「葉っぱをならべておもしろい形をつくろう」などの課題によって、あえて自分から意識をもって自然との関わり(触れ合い)を持つことで、子ども達に自然と自分との一体感、意識が自然の中にとけこむ気持ち良さ、または自然のものと触れ合う手応えなどを体全体で感じ、表現することの喜びを体験させるのが目的である。その過程では始めに自分のつくりたいイメージから発し、それに加えて自然の素材のもつ色や形、特質などの魅力に気づくことで新しいイメージが起り、これらを融合させて表現することで、自然と共存できる主体的な自分を感じることができるのである。



題材名「水源地の森にすむ鳥」

〈第3分科会提言〉

指導者 山室 ゆかり

はじめに

西岡水源地という豊かな自然に囲まれた所にある西岡南小学校。ここは遊びの場であり、つりの場であり、虫取りの場でもある。生活科や理科、写生会の場でもある水源地。しかし、その奥にはだれも行っていない。この神秘的に満ちた森に対する子ども達の興味をお話の絵の題材に役立てたいと考えた。

子ども達は、空想したり創造したりすることは大好きである。しかし、いざ下絵となるとおもいを実現できず、不安になる子が多い。イメージ作りを大切に、構想に意欲的に取り組ませる手立てを考え、ゆったりと自己の世界に浸らせたい。

また、版画は好きであるが、絵はどうも…という子が多いのでいろんな材質の紙版画を取り入れることにより、自分のイメージの世界で充分遊ばせ、伸びやかに表現させたい。

実践の概要

一研究の重点一

この実践では、教師の与えたお話のきっかけに続けて、子ども一人一人の作ったお話をもとに、思い思いに画面構成を考えながら下絵を描かせている。しかし、自分のおもいを画面構成に表すことは難しい。いつも「こういう感じにしたいのに、うまくいかない」と、自分のおもいが実現できないもどかしさを訴えてくる子が多いのである。そこで、画面構成をする上で、①いろんな技法や形で自分の水源地に対するおもいをイメージだけで表してみる。②水源地にあったらいいなあ、と思う木を描いてみる。③教科音楽で水源地の歌の作詩を試みる。の三つをイメージを広げる手立てとした。

それでもおもいが実現できずにいる子が多いことは普段の活動の中から予想されることである。イメージは描けても、画面構成できない子が多いのである。そこで、半立体で表すことも手立ての一つとして考えた。(発砲スチロール版と黒い画用紙による構成) 立体感が出ること、木や鳥の重なりを簡単に表せたり、直すことができるからである。このことで困っていた子もその立体感に驚き、また少しの動きでずいぶん構成が変わることに気づき、イメージの世界で遊ぶことができると考えた。

また、子ども達が得意な版画を入れることにより画面の引き締め効果、時間の節約、さらに材料で楽しく遊びながら伸び伸びと描くことができると考え実践してみた。

おもいの実現

版画の効果

指導計画

一指導の実際一

(音楽) 水源地の歌 (歌詞)

水源地へのおもい 夢 願い

(1) 様々な技法の中から色・形

イメージの広がり 色や形・材料との遊び

(国語) 水源地の森のお話の続き 発表会 下絵

イメージの深まり 楽しさ

(2) 半立体にらる構成 (発砲スチロールと黒画用紙)

イメージの再構築 おもいの実現

(3) 版づくり・着彩計画・製作

おもいの充足 表現・材料の選択 主体的かわり

(4) ステキな所を見つけよう

共感する心 自己の世界に浸る 満足感

他教科との
関連・合科

理科
動植物の
成育

算数
水源地をストーリー
化した単元構成



考察と課題

いかにしてイメージづくりをさせるか。これが問題である。豊富な材料・用具、技法、あるいはその中で充分遊ばせることで、ある程度のイメージは作られる。しかし、それを具体化し構想を練る所になると自分のおもいが実現できず、不安になる子が多いのが、我がクラス。イメージより具体的な物にするための手立てを個々のおもいに合わせて考えなければならない。それにはまず、個々のおもいをとらえ、どこでつまづきやすいかを予測し、支援のあり方を考えておく方法もあるだろう。また、感性を磨くことも大切である。それには、図面工作料だけではなく、普段の生活や行事の中でも磨く努力が必要である。さらに言うならば、どの教科でも感性を磨きたい。カリキュラムの編成も考えていく必要がある。

これからも子ども達が楽しみながら作り、満足できるような題材を探していきたい。

題材名「ながくつなげて」

〈第4分科会提言〉

指導者 近藤靖子



はじめに

子供たちは常に体を動かすことを好み、体育の学習のみならず、休み時間や、掃除、給食当番でさえもたのしそうに体を動かしている。又、お話の聞き方がよく、うなずいたりあいづちをうったりして聞き取っている。それに伴いたくさん心を動かし、たくさんのお話しかけやつぶやきが見られる。

図工では、描くことを好み画面一杯にのびのびとクレヨンや鉛筆を走らせている。ただ色塗りの際、せっかくなかいた線を全く無視し線からはみ出したり、塗り残しがある子が多く塗りこむ事を指導してきた。作る活動では、まっすぐ切ったり、のりづけ、折る、など基本技能についてはまだまだ上手に扱えない子が多く思いを生かせきれない点がある。

「ながくつなげて」の学習では子供たちの基本技能を育てると共に、「楽しいかざり」を作ることで各自の発想を広げてやりたいと考えた。

実践の概要

風になびくものをイメージし、身近な材料を使って、ヒラヒラするものを作り出そう

- ・かみちぎり大会
- ↓
- ・風でヒラヒラする材料を見つける
- ↓
- ・長いものがたくさん集まると何に見えるかイメージする
- 風でヒラヒラするものを作ってかざろう
- ↓
- ・飾る方法について考える
- ↓
- ・材料を工夫して、長くてヒラヒラするものを作る
- ↓
- ・セロテープ、ノリなどを使ってくっつける
- ↓
- ・作品を発表する
- ↓
- ・風の通る所にかざる



考察と課題

心配していたよりも「切る」ことを知っている子がいっぱいいて、上手に細く切ることができた。その為か、ちぎることよりも手軽におこなえるはさみで「切る」作業を選んだ子が多かった。又、ひたすらに長く長くと、はりきって作っていた。友達の飾りと比べたり、頭にかぶったり、ひらひらと風になびかせるなど、遊びながら楽しそうに取り組んでいた。学習後も窓につるした長い飾りを満足げにながめたり、友達にうれしそうに自慢していた。今回は学年で指導案の検討をし授業を行ったわけだが、幾つかの反省点や問題点がうきぼりになってきた。

- ・手本……子供の発想を一つの方向に固定させてしまうのではないか。指導したい事の部分だけを示すべきだったのではないか。
- ・技術指導……もっと「ちぎる」「はってつなげる」など色々な方法を選択させたかった。始めに技術指導を行うよりも、子供の「これどうやってやるのだろう」という気づきを大事にしていくべきだったのではないか。「教える」と「気づかせる」の兼ね合いが難しい。
- ・作品として……長くする事は楽しく取り組んでいたのだが、いざ、作品としてはりつける段階になると短くしてしまい飾りとしてはさみしいものになってしまった。

題材名「同じ形を組んで」

〈第5分科会提言〉

指導者 塩田 晃



はじめに

現在担任している学級で心を砕いているのは、児童の活動が低調なこと、いかに意欲を喚起するかということである。授業は楽しくなければならぬというのが私の信条で、そうなるように心掛けているつもりである。しかし、楽しそうにしている姿は見られても、夢中になって取り組んでいる姿はほとんど見る事ができない。学習課題を児童が心から望んでいるものになっていないことに原因があると思われる。

図工も例外ではない。ただ、若干事情が違うのは、図工が机に縛られない解放的な時間であるということで、いくらか好意的に受け入れられていることである。

図工に息抜きの側面があることは否定できない。だからこそ児童の内面に働きかけることができ、生徒指導的な役割を持たせることができると、周りにいる多くの先生方が思っている。しかし、目指すべきは、そのような機能に加えて造形の喜びが味わえ、その世界に浸ることができる授業である。

過去にダンボールを使って自分が入れる空間をつくる、教科書(日文)の題材を扱ったことがあった。この時の児童の活動は実に生き生きとしたものであった。児童はそれぞれの空間を宇宙船や基地に見立て、内部に工夫した装飾を施した。完成後に児童の一人が「ここで給食を食べたい」と言い出し、全員で食べることになったのだが、これ程までに児童は熱中し、作品に愛着を感じていた。私自身も十分な手応えを感じることができたのである。

現在の教科書にも同様な題材『同じ形を組んで』がある。指導書には、子どもは物陰に隠れる、箱の中に入るなどの行為に好奇心を示すので、意欲的に取り組むことが想像できるというような記述があった。造形遊びからの橋渡しの性格を持つ題材であり、過去の経験からもこのような経験をさせたいと思った。ただ、異なるのは、同じ形を組み合わせる点である。正多面体がベースとなることが予想されるが、サッカーボールなどの準正多面体に興味を持つ児童もいると考えられ、発展性がある。また同じ形を用意さえすれば組立は容易なので、抵抗感なく作品ができるとも考えた。今回のテーマは「子どもを幾何学の世界へ誘う」である。

実践の概要

活動のねらい

- 様々な正多面体や現代彫刻などの作例に触れ、実際につくることにより、立体図形に対する感覚を養う。
- 試作を通して、発想⇒構想⇒計画などの、表現活動の態度を身につけさせる。
- 接合方法を工夫することによって、丈夫になったり、動かせることに気付かせる。
- 立体を組み合わせる活動を通して、協力する楽しさを味わわせる。

指導計画

<1次> 色画用紙による試作(2時間)

- 正多角形を切り取り、セロハンテープを使って自由に組み立て、立体図形に対する感覚を養う。

<2次> ダンボール紙による制作(4時間)

- 正多角形に切り取ったダンボール紙を工夫して接合し、自分が入れる立体図形をつくる。
- 立体図形を組み合わせて遊んだり、友人の作品を鑑賞したりする。

試作の段階の正多角形は、こちらで製図して色画用紙に印刷したものを使わせた。用意した正多角形は正三角形、正方形、正五角形、正六角形、正八角形で、いずれも一辺が3cmである。ダンボールの正多角形は、こちらで用意した型紙をもとに切らせた。制作を効率的に行えるのに加え、立体を連結させるのに都合がよいからである。

考察と課題

試作は子どもの意欲を減退させるという指摘がある。今回はあえて計画に盛り込み、細心の注意を払おうと思っていたのだが、うまくいっていなかったようだ。このことは「最初の先生かっこよかったけど、その後の先生ブサイク」「なんか算数みたい」という子どもの言葉からも明らかである。

今回の活動の中には、「部品屋」なる遊びなど予想もつかなかった活動がみられ、ある程度の広がりを感じられた。また、協力することの楽しさも味わわせることができたと思う。詳細については別の紙面に譲りたいと思う。

題材名「絵画における基礎基本」
～確かな表現力を育てるために～



〈第5分科会提言〉

指導者 常盤 欣也

はじめに

本校は、1学年1学級の小規模校であり、転入生以外は保育所からずっと同じクラスで過ごしてきた。そのため刺激もあまりなく、性格も素直な生徒が多い。

美術に対しては、約半数の生徒が入学時には好きであると答えていたが、小学校の図工の授業はあまり確保されないようで、基本的な事項や技術ができていない生徒が大半である。また、小学校の中学年頃から、物の見方が客観的になり、絵を描くのが嫌いになる生徒の大半は、思うように描けないと言う理由のためのものである。したがって、用具の使い方や制作の仕方など、基本的な事柄を最初に指導しなければならない。

本校では、一昨年「基礎基本を重視し、学ぶ力が育つ教科指導とその評価のあり方」を研究主題として取り組んできた。美術科においても、自由な発想で表現力豊かな作品を制作するためには、基礎基本を生徒に身につけさせる必要があると長年考え、また取り組んできた。絵画においては、「物の見方」・「デッサンの描き方」等を指導してきた。また、デザインや彫刻の制作でも、クロッキーブックに必ず下描きをさせ、描く機会を多くしてきた。評価についても、「上手い」「下手」ではなく、どれだけ集中して制作に取り組んだかを重視して見るようにしてきた。その結果、3年生になると、生徒達は、時間をかけ、完成度の高い作品を制作するようになった。

実践の概要

(1) 題材名「自分の手を見つめよう」(鉛筆デザイン)

(2) 指導計画(4時間計画)

- ① 自由に自分の手を描こう……………1時間
- ② デッサンの描き方を知ろう……………0.5時間
- ③ 自分の手を描こう……………2時間
- ④ 鑑賞と反省……………0.5時間

(3) 指導の実践

- ① 八つ切りの半分の大きさの画用紙に、自由に絵を描かせた。ほとんどの生徒は、自分の手を概念的にとらえ、よく観察しないで描いている。そのため線描で、短時間で描き終えた。また、画用紙の隅に描いたり、小さく描いたりさまざまである。生徒の中には見た通りになかなか描けないために、何度も消したりして、一時間もかけてもほとんど描けない生徒もいた。
- ② 画用紙の中心に描くために、小さくならないように、そしてある程度見た通りに描くために、描く手順を指導した。
- ③ 最初に描いた画用紙の裏に、指導後再度描かせた。時間は最初のデザインに比べると何倍もかかったが、その結果、ほとんどの生徒はバランスよく、また、ある程度、白黒の調子も描き込むことができた。
- ④ 最初に描いたデッサンと、その後描いた絵を比べさせ、自己評価をさせた。

考察と課題

中学校に入学して、最初の制作がこの自分の手のデッサンである。6月に公表された教育課程審議会のまとめでは、個性を生かした多様で創造的な表現や鑑賞の活動をしていくために、その基礎となる感覚・感性や創造力、技能などの資質・能力を一層育てる観点に立って改善を図る、となっている。

デッサンは、物を観る目・描き方・立体感などを表現するための基本的な技術を養うためには、一番身近な題材と考える。最初のデッサンでは、ほとんどの生徒は、部分的な物の見方しかできないために、仕上がりの大きさ・形など無計画に描いていた。「個性を生かした多様で創造的な表現力」を育てるためには、ある程度のデッサン力が必要と考える。また、中学校では、客観的な評価をするためにも、基礎的な技術を身につけさせる指導が重要であると考えている。

しかし、デッサンの授業で指導した事柄が、次の授業ではあまり生かされていないのが実態である。週一回の授業、ましてや行事などでつぶれたときは、3週間ぶりの授業の時もある。同じことを何回も繰り返しての指導、そして、集中力を持続させるために、生徒が興味を示す題材の選定など、時数が削減される中、課題もたくさん出てきている。そのためにも、今後、基礎的な技術を身につけられるようにするため、絵画・彫刻・デザイン・工芸、そして各学年ごとの指導として基礎基本の関連を系統立てていきたいと考えている。

題材名「太陽の日差しの下で」

〈第5分科会提言〉

指導者 高橋 潤



はじめに
風景画の
授業と
印象派の風景

風景写生は1年2年と必ず年間計画に入れることにしている。本校の校庭は緑と木々に囲まれ美しく、モチーフとしては申し分ない。生徒も意欲的である。少々作業は遅く、時数はかかるが、丁寧にこつこつと制作し、よい作品を仕上げる。

しかし、そういう、いわば順調な風景写生の指導を続けながら、思うことがある。「生徒は何を描こうとしているのか」「何を喜びにしているのか」。描写力を高める、絵の具の使い方を身につける(教師の意図でもあるが)そういう目的とはもっと違う大きな魅力が風景画にはあるはずである。わざわざ暑い日差しのなか、画板と絵の具セットを抱えて外に出て、直接自然と対面して描かせる大いなる魅力が…きっと、私もそうだった。

そういえば、過去、暗いアトリエを飛び出して、日差しの下にキャンバスを運び出した人達がいた。そう「印象派」の画家達である。風景画を考えると、印象派の画家達の気持ちに立って見つめ直すと、授業はどうなるであろう。

印象派的
風景画の
実践の概要

	今回の取り組み	以前の取り組み
テーマ	野外に出て直接見て描く。だから、見たままの風景を描くべき。曇りの日は曇りの色。晴れの日には晴れの色。春の緑。夏の緑。つまりその日にしか出合えない「太陽の日差しの下での風景」を描く。	そっくり描かなくてはという意識に加えて、遠近法(線・空気)による奥行き感、広がり感を重視するため、法技的なことに意識が集中してしまい風景の美しさを楽しむ余裕がない。
技法	透明水彩技法で重ねていくよりも、不透明彩技法でぐいぐい描いていくほうがいい。絵の具を画面の上で混色しながら変化に富んだ色を置いていきたい。	太陽の光を表現するためには[短時間]が原則。太陽の日差しは思った以上に変化が激しい。上から塗り重ねていくという色彩表現は適さない。
絵の具	自然の色に負けない、力強い発色を求めると「油絵の具」か「アクリル絵の具」が欲しい。「アクリル絵の具」でいく。	小学校から使用している絵の具は安価で安全、使いやすいが乾燥後の色が変色しすぎるし、発色が鈍る。
支持面	支持面は堅牢の方がいいので「水張り」をするか、「イラストボード」が欲しい。「イラストボード」に地塗りを施す。	色塗りが進むと普段の画用紙では波打ってくるし、擦るとぼろぼろになる。吸水するため絵の具の発色が鈍る。
表現	太陽の日差しを感じる「色彩の印象」が大切。何よりも集中力が必要。	形や質感を正確に描写する必要はない。(そんな時間的余裕もないが)
制作時間	4時間で完成(2日連続で同じ時間帯を確保)要素を絞り(芝と木の幹)、色の変化や表現を意識させ、豊かな色彩の変化で画面を満たす。	風景をじっくり描くのも良いが、10時間、1ヵ月以上の制作期間を要しているうち風景の色が変化してしまう。そのような風景画は季節感がない。

実践の成果

- ◆今までの風景画の授業より集中力が高い。
⇒表現が「色彩」のみに絞っているため集中しやすい。
- ◆時間をかけていた絵より色が豊か。
⇒平面塗りより点描塗りが多くなるし、パレット上の絵の具を効率良く活用できる。
- ◆他の生徒の作品をより参考にしようとする。
⇒描写力より色の工夫の問題であるので、苦手意識がとれ鑑賞の意欲が沸く。
- ◆大胆に絵の具を使えるようになった。
⇒十分な量があり、塗り重もできるので失敗に対する安心感がある。



考察と課題
「系統」
から
「発生」
へ

我々は、生徒を育てようとするあまり、必要以上に系統だてた美術をつくってしまっているのかもしれない。自分のことを思い出してみる。何故絵が好きになったか…人に教えてもらったり、授業で上達したからではなく、もともと好きだったから美術の学習も好きになり、「上達したい」と思ったのである。美術には、理屈ではない何か「単純で純真な魅力」があるように思う。かつての若い画家達が印象派を「発生」させた気持ちを生徒にひもとくことができれば、きっと、堅苦しくなく指導的でない、人間らしく魅力的な生徒が共感できる美術の授業ができるに違いない。

題材名「張り子でつくろう」

～オリジナルだるま制作～

〈第6分科会提言〉

指導者 安田 仁 昭



はじめに

この題材では、「張り子」という技法を用いて、オリジナルのだるまを制作するというもので、1年の彫刻題材としては初めて取り組んでみた。粘土に触らせたい、制作方法に興味をもたせたい、立体の苦手な生徒にも意欲的に取り組ませたいなど、いろいろと欲張った思いの中から設定してみたものである。

彫刻作品というよりも、工芸・デザインなど、他の分野の造形要素があり、総合的な内容になってしまったが、1年生の最後の応用的な題材としては、適しているのではないかと思う。自由な発想によるだるまのテーマ、粘土による立体の造形、和紙を用いた工芸的要素、曲面の着色など、変化に富んだ造形活動を経験できる。

「だるま」という設定には多少古いものはあるが、テーマに遊び心をもたせることで、立体作品に抵抗なく取り組ませることができた。今後、量感・動勢といった要素を含んだ彫刻作品、また、抽象彫刻へと発展させる足がかりとしたいと考える。

実践の概要

◎学習の流れ (15時間)

- [鑑賞] (1時間) ◇参考作品を鑑賞し、張り子についての知識を深める。
・赤べこ、お面、だるま、干支の置物
◇制作のねらい、手順を理解する。
- [構想] (1時間) ◇アイデアスケッチで自由に構想を練り、テーマが決定したら、簡単な図面にしてみる。
・三面図 (色鉛筆で着色)
(例) モナリザだるま、ワールドカップだるま、コギャルだるまなど
- [型づくり] (2時間) ◇彫塑粘土で張り子の原形をつくる。
・だるま独特の丸いフォルム
・細部は紙や張りやすい形にする。
- [紙張り] (4時間) ◇濡らした新聞紙を原形に張り、くるむ。
◇和紙をちぎって接着剤に浸したものを張っていく。
(その後、乾燥)
- [組み立て] (2時間) ◇カッターナイフで切り開き、原形を抜き取る。再び元どおりに張り合わせ、下塗りを行う。
- [彩色] (4時間) ◇絵の具で着色する。
◇透明ニスで上塗りをして仕上げる。
- [鑑賞] ◇相互に作品の良さや楽しさを味わう。
- [自己評価] (1時間) ◇自分の制作を振り返り、自己評価を行う。



考察と課題

本題材は、今年初めて試したもので、きちんとした見通しのないまま授業を始めってしまったため、制作の段取りや評価の観点などあいまいな面も多少あった。

形を「だるま」と限定したことは、他の作品をつくりたい生徒にとっては、発想をせばめる面もあるが、遊び心で自由テーマを設定させることで、楽しんで意欲的に取り組んでいた。内容としては、いろいろな造形要素があり、彫刻作品としては苦しいが、総合的な題材としてはおもしろい内容だと思う。完成した作品を貯金箱などにするという工芸作品的な発展要素ももっている。また、曲面に彩色する楽しさ、難しさを味わうこともできる。しかし、単純なだるまの形を、粘土で作りだすことも苦勞する生徒がおり、立体感覚を養っていかなければ、量感や動勢の要素をもった彫刻作品や抽象彫刻につなげていくのは難しいと感じている。

題材名「私の美術～得意分野でつくる～」

〈第6分科会提言〉

指導者 小笠原 愛



はじめに

3年生、155名での取り組みである。学力的には劣るが、制作時間をかけてコツコツと取り組む生徒が多い。生活面においても比較的安定しているが、逆に活気に欠けるともいえる。

また、受験を間近に控え希望と現実の差から、全くやる気を無くしてしまう者も出がちな時期である。このようなことから、「自分の内面のよい部分（自分の善さ）を見つけだし、表現することで、ここから一人の人間としての自信に変えていってほしいという強い願いを込めて、この題材を設定した。もちろん創る楽しさも味わってほしいと思っている。

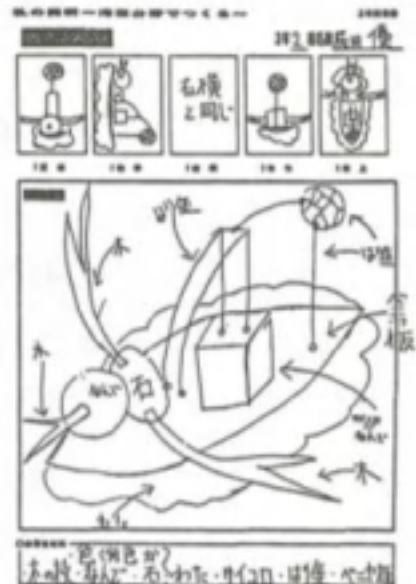
実践の概要

初め、阿部典英作のオブジェを見せた。「これでも作品なのか？」「作者は何を考えて創ったのだろうか？」「何で創られている？」という生徒への問いかけから始まり、作品に込められた願いと、作家の「楽しみながら創ったよ」という言葉も一緒に紹介した。現代美術の作品を鑑賞し、上手い作品だけが芸術作品ではないこと、どの作品にも作者の心が込められているということを強く印象付けた。

複合題材ということで、自分の得意分野で抽象立体（作品の一部に絵画が組み込まれていたり、彫刻があったりなど）を創ることにした。テーマは「自分自身」である。「自分の内面のよい部分（自分の善さ）を見つけ出し、そこからイメージ化し形にする。実際に「自分の善さ」を目で確かめながらの制作となる。なお、コンセプチュアル・アートのように創ってもよいことをあらかじめ伝えてある。「自由に表現」を基本としているが、約束事として、持ち運べる大きさであること（A3くらい）と、なにより「心を込めて創ること」を絶対条件としている。

素材は各自、作品に合うものを選び、決める。また、学校で用意したものは、春先に切り落とされた木の幹や枝、針金、粘土、綿、接着剤などで、ビー玉、モールなど細かな物は各自の用意である。道具の扱いについても十分注意を払った。

抽象作品は生徒の制作意欲が多岐にわたるため、評価する上での難しさが予想される。そこであらかじめ評価得点を生徒に伝え、行き違いのないようにした。



考察と課題

今回の学習を通して子ども達には、つくることの楽しさを味わってほしい。更に制作を通してお互いの善いところを認め合い、自信に変えていってほしい、との願いを込めて授業を行った。今までの制作との違いは、それぞれが別々の素材を使っての制作であること、また2年時の平面での抽象が今回は立体で表現したことである。授業中には「すぐに捨てられない気持ちの込めた作品にしよう」「一つ一つの形や線にこだわりをもってごらん」「自分で決めた形なんだから自信をもって制作しよう」という内容の言葉をよく口にした。

気が付いたことは、制作中の一人ひとりの表情やクラス全体の雰囲気、ポスターやデッサンの制作時よりも明るく感じたことである。全員が集中して、真剣なまなざしで制作という姿も立派だが、同じ制作でも、今回は笑顔が多く見られた。また、普段はやる気をみせない生徒がこの制作時間になると生き生きと反応していたことが何より嬉しかった。

逆に、全くなにも思い付かないと、だまってプリントと向き合っている生徒が4人いた。言葉から発想する形をいくつか一緒に練習してみせ、自分で描こうとするまでもっていくようにしている。自信を持たかかどうかについては、今後生徒の感想を聞いていく予定である。

目に見えないものを形で表現することは、容易ではない。「本当にこれでいいのか」と、疑問に思う生徒もいた。たくさんの作品に触れることが必要である。これからは、よりたくさんの作品に出会うチャンスを増やしてやりたい。そして、少しでも大きな「感動できる目」を育てていきたいと考えている。

題材名 高等学校デザイン「絵本を創る」



〈第7分科会提言〉

提言者 板東宏哉

I. はじめに

私が授業で指導の核としていることは“見て創る”ということである。目で見て心で感じ手で表現することが、ものを創る（表現する）上で基本的なプロセスであると考えます。

指示待ち症候群などと言われる生徒たち、試行錯誤して問題解決をし物事を進めていくことのできない生徒、などいろいろ言われているけれど、何が原因なのだろう。もしその原因の一端が美術教育にあるとしたら、事は重大である。「ゆとり」や「感性」が教育現場でのスローガンになっている現在、反面では受験のために限られた時間に多くを数えなくてはならないという矛盾が起きている。そのなかで、芸術教科もその「ゆとり」を生み出すために単位減という形で影響を受けている。本当にゆとりを考えるのであれば、全ての高校に専任教師を置き、単位増を考えるべきではないか。

高度な情報社会に足を踏み入れた現代、キーボードのボタン操作で全てのことが足りてしまう時代になろうとしている。鉛筆やメモ帳など無用になりつつある時代に生きる者として、また美術教育に携わる者として、目と手と心を働かせることがどういうことなのか常に考えていきたい。我々が先人から受け継いだ、目と手と心で表現する力を育てることがキーボードの向う側の世界をも創造的なものにできるのである。

II. 提言内容

1. 絵本製作の実際
 - ・年間計画の中での位置づけ
 - ・製作プロセス
 - ・製作環境
 - ・読みきかせ会の実施
2. 美術教育の今後

増毛元陣屋



安政三年から慶応三年までの約十二年間秋田藩によって西蝦夷地と樺太の警備をしましたが、その拠点となっていた元陣屋を跡地に再現した施設です。資料展示、映像体験のほか、資料室、郷土伝習室などを配した総合交流促進施設として魅力しました。



本間醸造

名峰暑寒別岳の伏流水を使った増毛の地酒「国稀（くにまれ）」は、左党には見逃せない逸品だ。明治十五年創業という丸一本間合名会社は北海道で最も古い老舗であり、最北の造り酒屋として知る人ぞ知る酒蔵だ。国稀のほかに「鬼ころし」「生酒」「純米酒」など、吟味した原料と社氏の技とこだわりから、コクのある味わいが生み出されている。酒蔵内の見学も可。
問い合わせ／☎（〇一六四）五三一〇五〇

海のふるさと館



地球の生物の一員にしか過ぎない私たち。その人間の染色体には、生命誕生の起源から今日までの出来事が累々と記憶されているといわれています。
何の変哲もない留萌の海や川や丘の連なりには、誰もがなつかしむ太古のピュアな風景と思われる空気が残されているようです。つまり、アイデンティティなり、自我を啓発してくれた風景が残されているのです。「自分の存在感」を刺激してくれる「場」を発見させてくれる留萌の風景です。

留萌黄金岬



全道造形教育ネットワーク

「ネットワークから発信する 北海道造形教育の未来」

本部研究部 ネットワークプロジェクト

1. ネットワークの歩み

【平成5年 旭川大会】

◆本部研究部の提案を受け、全道造形教育ネットワークの設立が承認される。

【平成6年 釧路大会】

◆第1回ネットワーク分科会を開催。
◆各支部の現状報告や問題点の交流を行う。

【平成7年 千歳大会】

◆大会会場で各支部の作品交流を行う。

【平成8年 札幌大会】

◆全18支部の名簿を取りまとめる。
◆地域の特色を生かした実践交流を行う。

【平成9年 根室大会】

◆新研究主題の設定や、教育美術展の審査員派遣について話し合う。

2. ネットワーク分科会の討議内容

【参加者】

◆各支部から最低1名の参加をお願いします。
◆その他、関心のある方はご参加下さい。

【内容】

- ①名簿の丁合・作成
- ②新研究主題の設定について
◆根室大会に続き、これからの造形教育に何が求められるかを話し合う。
- ③授業実践テーマの共通理解
◆授業テーマ作成の経過報告を行う。
- ④教育美術展への審査員派遣について
◆教育美術展審査会への支部代表派遣について日程等の連絡を行う。
- ⑤造形教育連盟ホームページの作成について
- ⑥全国大会に向けて
◆2001年の全国大会に向けて、キャッチフレーズ等に関する意見交流を行う。

3. 全道18支部代表者名簿（平成10年8月）

〈道央ブロック〉

- | | |
|------------|---------------|
| ①札幌市造形教育連盟 | 桜田 豊 |
| 札幌市立北園小学校 | ☎011-721-5245 |
| ②石狩造形教育連盟 | 山崎 正明 |
| 千歳市立向陽台中学校 | ☎0123-34-0551 |
| ③空知美術教育研究会 | 渡辺 貞之 |
| 深川市立深川小学校 | ☎0164-23-4195 |
| ④連盟後志支部 | 田丸 公記 |
| 余市町立旭中学校 | ☎0135-22-2075 |

〈道北ブロック〉

- | | |
|-----------------|---------------|
| ⑤上川造形教育研究会 | 長谷川まゆみ |
| 名寄市立名寄東小学校 | ☎01654-2-2041 |
| ⑥旭川市教育研究会図工美術部会 | 玉手 稔唯 |
| 旭川市立永山小学校 | ☎0166-48-2811 |
| ⑦留萌地方美術教育研究会 | 池田 忠喜 |
| 増毛町立舎熊小学校 | ☎0164-54-2121 |

〈道南ブロック〉

- | | |
|--------------|---------------|
| ⑧渡島美術教育研究会 | 水口 司 |
| 七飯町立大中山中学校 | ☎0138-65-2221 |
| ⑨函館市美術教育研究会 | 鈴木 秀明 |
| 函館市立昭和小学校 | ☎0138-41-4946 |
| ⑩檜山造形教育研究会 | 中川眞一郎 |
| 熊石町立雲石小学校 | ☎01398-2-3387 |
| ⑪胆振造形教育研究会 | 常盤 欣也 |
| 壮瞥町立壮瞥中学校 | ☎0142-66-2367 |
| ⑫室蘭市教育研究会造形部 | 矢元 政行 |
| 室蘭市立向陽中学校 | ☎0143-44-2951 |
| ⑬苫小牧市造形研究会 | 大月 猛 |
| 苫小牧市立啓明中学校 | ☎0144-67-3115 |

〈道東ブロック〉

- | | |
|-----------------|---------------|
| ⑭十勝造形サークル | 出村 英和 |
| 鹿追町立通明小学校 | ☎01566-7-2466 |
| ⑮帯広市教育研究会図工美術部会 | 神 史明 |
| 帯広市立第四中学校 | ☎0155-24-3511 |
| ⑯釧路造形教育研究会 | 奥田 泰朗 |
| 釧路市立東中学校 | ☎0154-41-3591 |
| ⑰オホーツク造形教育連盟 | 添田 好美 |
| 北見市立緑小学校 | ☎0157-36-2688 |
| ⑱根室造形教育連盟 | 大井誠一郎 |
| 中標津町立中標津小学校 | ☎01537-2-2565 |

※本部ネットワークプロジェクト 野切 卓
Eメール hokuzou@ma5.seikyoku.ne.jp
道教大附属札幌小学校 ☎011-778-0471

道北ブロック

- ⑤上川造形教育研究会
- ⑥旭川市教育研究会図工美術部会
- ⑦留萌地方美術教育研究会

全道造形教育ネットワーク

〈担 当〉 本部事務局研究部
 ネットワークプロジェクト
 hokuzou@ma5.seikyou.ne.jp
 教育大学附属札幌小学校
 野 切 卓
 ☎002-8075 札幌市北区あいの里
 5条3丁目1-10
 ☎ 011-778-0471
 FAX 011-778-0640

道央ブロック

- ③空知美術教育研究会
- ②石狩造形教育連盟
- ①札幌市造形教育連盟
- ④連盟後志支部

道東ブロック

- ⑦オホーツク造形教育連盟

- ⑧根室造形教育連盟

- ⑩釧路造形教育研究会

- ⑪十勝造形サークル

- ⑫帯広市教育研究会図工美術部会

道南ブロック

- ⑬渡島美術教育研究会
- ⑭胆振造形教育研究会
- ⑮函館市美術教育研究会
- ⑯室蘭市教育研究会造形部
- ⑰檜山造形教育研究会
- ⑱苫小牧市造形研究会

北海道造形教育連盟規約

1. 名称と目的 本連盟は、北海道造形教育連盟といい、北海道造形教育の振興を図るをもって目的とする。
2. 事業 本連盟は、目的を達成するため次の事業を行う。
 - ① 研究会・講習会・展覧会等の開催及び後援。
 - ② 造形教育に関する教科書・教材・教具等の研究。
 - ③ 機関誌の刊行。
 - ④ その他造形教育団体との連絡提携。
 - ⑤ その他造形教育振興上必要な事項。
3. 会員 正会員 本道幼・小・中・高・その他これに準ずる学校の教職員。
賛助会員 本連盟の目的に賛同するもの。
4. 組織 サークル 本道各地にサークルを置き、会員は原則としてこれに所属する。
本部 本連盟の本部は札幌に置く。
5. 構成及び任務
 - ① 役員
委員長 1名 本連盟を代表する。
副委員長 若干名 委員長を補佐する。
会計監査 2名 会計の監査をする。
 - ② 委員
地区委員 地区1名 地区サークルを代表する。
常任委員 若干名 本連盟の運営に当たる。
顧問 本連盟の重要な問題につき意見を述べる。
6. 選任 *委員長、副委員長、会計監査は委員総会で選出する。
*地区委員は地区サークルで選出する。
*常任委員は委員長の委嘱による。
*顧問は委員総会において委嘱する。
7. 任期 役員及び委員の任期は1カ年とする。但し再任を妨げない。
8. 会議 *総会 必要に応じ開催し、連盟事業につき協議する。
*委員総会 役員、委員をもって構成し毎年開催する。
役員の選出、予算、決算及び年度計画等につき審議する。
*常任委員会 役員及び常任委員をもって構成し、連盟の事業を執行する。
9. 会計 本連盟の会計は、会費・事業収入及び寄付金により執行する。
会費 正会員は1人年額 1,000円を納入するものとする。
サークルは、年額 8,000円を本部に納入するものとする。
10. 事務局 *事務局は事務局長在勤の学校におく。
*事務局長は常任委員中より委員長が委嘱する。
*事務局には必要に応じて各部を設け業務の分担をする。
11. 年度 本連盟の事業並びに会計年度は5月に始まり翌年4月に終わる。
12. 規約の改廃 本規約の改廃は委員総会の決議による。

(昭和62年5月3日改定)

(平成6年4月29日改定)

平成10年度 北海道造形教育連盟名簿

役員

1998. 6. 20

役名	氏名	勤務校	所在地	電話
委員長	芝木 秀昭	札幌市立手稲鉄北小長	006-0812 札幌市手稲区前田2条12丁目1-2	011(681)2287
副委員長	重山 恵	旭川市立雨粉中長	070-8033 旭川市神居待ち雨粉381番地	0166(61)6816
"	伊藤 英明	函館市立千代田小長	041-0841 函館市梁川町23番地4	0138(52)2518
"	須貝 徹	湧別町立芭露小長	093-0731 紋別郡湧別町芭露879	01586(6)2102
"	織田 達史	留萌市立幌糠中長	078-3168 留萌市幌糠町1861	0164(46)1144
"	奥野 郁男	札幌市立向陵中長	064-0824 札幌市中央区北4条西28丁目	011(611)4271
監査	山口 長伸	中標津町立計根別小長	088-2682 標津郡中標津町計根別北1西1	01537(8)2062
"	関 建治	恵庭市立和光小長	061-1406 恵庭市和光町250	0123(32)4744

本部事務局 (常任委員)

役名	氏名	勤務校	電話
事務局長	藤井 正治	清田南小長	(881)1975
局次長	小尾 喬	すずらん幼長	(782)4350
"	伊藤 暢紀	東園小長	(811)8138
"	永井 恭子	みどり小長	(812)8164
"	村谷 利一	稲陵中長	(683)3451
"	香西富士夫	札幌平岸高	(812)2010
会計部長	富田 泰	苗穂小頭	(721)5105
副部長	今 裕子	山鼻小	(511)6616
"	植木 則子	西岡南小	(582)6350
庶務部長	池田 悦子	円山小	(631)3437
副部長	益村 豊	山鼻南小	(532)8340
"	古谷 壽朗	屯田西小	(773)6105
次長	今谷 孝	平和小	(663)4384
"	氏家 珠実	桑園小	(611)4211
"	谷山 圭子	白楊小	(726)4158
"	廣瀬 恵子	山鼻小	(511)6616
"	合田 典史	前田北中	(694)2320
"	館内 徹	月寒中	(851)8158
広報部長	毛馬内國夫	桑園小	(611)4211
副部長	土肥 宏充	厚別北小	(894)3011
次長	東 尚典	大通小	(251)0228
"	加藤 正幸	新川中央小	(761)1511
"	小泉 誠	開成小	(783)4492
"	小林万咲彦	石山南小	(591)4747
"	山室ゆかり	西岡南小	(582)6350
"	富田 賢司	美香保中	(711)8151
"	中山 龍雄	手稲西中	(681)3392

役名	氏名	勤務校	電話
研究部長	阿部 宏行	教育大(中央小)	(709)1823
副部長	森 美由紀	いなづみ幼	(683)3185
"	桜田 豊	北園小	(721)5245
"	田中 潤	屯田中央中	(771)5981
"	小林 智彦	札幌白陵高	(871)5500
次長	柏木 順	いなづみ幼	(683)3185
"	細川 依子	丘珠幼	(782)5235
"	板田 恭侑	藤野南小	(592)2120
"	川島 正夫	伏見小	(551)2771
"	篠原 寛	宮の森小	(631)6356
"	野切 卓	附属小	(778)0471
"	安木 尚博	幌南小	(521)0214
"	堀口 基一	屯田西小	(773)6105
"	湯浅 大吾	新陽小	(756)1538
"	阿部 時彦	中央中	(241)6266
"	伊藤 尚	米里中	(875)5771
"	小野 泰裕	蒸岩中	(571)6039
"	高橋久美子	宮の森中	(612)1147
"	安田 仁昭	西岡北中	(853)2422
"	石川 雅昭	札幌東海第四高	(571)5175
"	開沼 英則	札幌東陵高	(791)5505
"	本庄 隆志	札幌南陵高	(591)2101
"	松井 茂樹	札幌月寒高	(851)3111
事業部長	田口 和男	白石小	(861)9265
副部長	稲實 順	創成小	(241)1756
"	白井 真澄	前田小	(683)3749
"	中居 正光	月寒東小	(851)7924
次長	太田寿栄子	平岸高台小	(813)7751
"	大村 憲一	駒岡小	(584)6533
"	小野 正二	札幌苗緑小	(792)2480
"	熊谷 悦代	八軒北小	(642)8603
"	土井 善範	伏見小	(551)2771
"	八田 博之	円山小	(631)3437
"	松本 和彦	元町小	(781)8111
"	毛利 聡	厚別東小	(898)4650
"	元茂 章子	美しが丘小	(884)9860
"	箭内 浩之	幌西小	(561)2201
"	中西 毅	西陵中	(662)9323

事務局

札幌市立清田南小学校

藤井 正 治

〒004-0845 札幌市清田区清田5条2丁目18-1

TEL 011(881)1975 FAX 011(881)9759

年次研究主題

全道造形教育研究大会の開催地と研究主題一覧

- 第1回（札幌）1950
情操教育の一貫として本道図工教育の進展を図るため。
- 第2回（札幌）1952
美術教育の新思潮である創造主義美術教育の諸問題について。
- 第3回（旭川）1953
美術教育の指導とは何か。
- 第4回（函館）1954
図画工作教育実践上の諸問題について。
- 第5回（釧路）1955
図画工作教育における学習指導上の問題点の解明。
- 第6回（札幌）1956
造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか。
- 第7回（室蘭）1957
のぞましい造形教育における具体的諸問題について。
- 第8回（小樽）1958
図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか。
- 第9回（帯広）1959
新段階における造形教育のあり方。
- 第10回（網走）1960
本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見よう。
- 第11回（滝川）1961
子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか。
- 第12回（名寄）1962
子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。
- 第13回（余市）1963
子どもが生活を見つめ造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。
- 第14回（札幌）1964
子どもの造形能力とは何か。
- 第15回（稚内）1965
子どもの創造能力とは何か。
- 第16回（室蘭）1966
子どもの創造能力とは何か。
- 第17回（苫小牧）1968
指導の構築を具体化する。
- 第18回（苫小牧）1968
指導の構築を具体化する。
- 第19回（札幌）1969
造形能力は、どのような指導によって育てられるか。
- 第20回（旭川）1970
ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか。
- 第21回（札幌）1971
造形能力は、どのような指導によって育てられるか。
- 第22回（帯広）1972
未来に生きる子どもの造形教育（生活に根ざした造形教育をどう高めるか）。
- 第23回（室蘭）1973
未来に生きる子どもの造形教育（たしかな表現力をどのように育てるか）。
- 第24回（美幌）1974
未来に生きる子どもの造形教育（ひとりひとりの子どもの表現力をどう高めるか）。

- 第25回（江別）1975
未来に生きる子どもたちの造形教育（自ら創り出す力をどう育てるか）。
- 第26回（岩見沢）1976
未来に生きる子どもの造形教育（すべての子どもに造形のよろこびを）。
- 第27回（札幌）1977
（第30回全国造形教育研究大会とかねる）みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践。
- 第28回（函館）1978
みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践（すべての子どもが生き生きととりくむ学習）。
- 第29回（旭川）1979
生き生きとしたゆとりのある子どもを育てる図工美術教育のあり方。
- 第30回（苫小牧）1980
ひろがりやと深まりの造形教育を求めて。
- 第31回（釧路）1981
創り出す心をよびおこす造形教育。
- 第32回（室蘭）1982
見る、知る、感ずる、そして創りあげる喜びを。
- 第33回（留萌）1983
生活とふれ合い、創る心のひろがりを求める造形活動。
- 第34回（札幌）1984
知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動（わきたつ発想・たしかな表現・つくり出す喜び）。
- 第35回（函館）1985
知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動（心をこめてつくり出す子どもを育てる）。
- 第36回（旭川）1986
（第39回全国造形教育研究大会とかねる）子どもの心をゆり動かす造形教育（つくる心のひろがり求めて）。
- 第37回（紋別）1987
子どもの心をゆり動かす造形教育（表現の喜びにひたる子どもを育てる）。
- 第38回（滝川）1988
子どもの心をゆり動かす造形教育（ひたむきに創る心を育てる）。
- 第39回（帯広）1989
子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実（君はいま創造のとりこに）。
- 第40回（苫小牧）1990
広がり、深まり、そして感動を！
- 第41回（札幌）1991
子どもの個性的表現を授ける造形教育（子どものつくる喜びをひらく）。
- 第42回（函館）1992
子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実（感動、そして創造する喜びを）。
- 第43回（旭川）1993
思いをあたため心はずませ創る喜びを。
- 第44回（釧路）1994
心ときめく、創造の喜びを求めて。
- 第45回（千歳）1995
豊かな心と確かな力をはぐくむ造形学習を。
- 第46回（札幌）1996
自らの心を拓く造形学習の在り方
～造形＝愛感美遊創 in 札幌～
- 第47回（根室）1997
感性から発し躍動する力を育む造形学習を！
- 第48回（留萌）1998
楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と共感し寄り添う指導。

第48回全道造形教育研究大会留萌大会

大会要項

平成10年9月10・11日

発行 全道造形教育研究大会留萌大会
実行委員長 織田達史
編集 留萌地方美術教育研究会
印刷 白鷗印刷株式会社

カラー印刷
一般ビジネス印刷
企画・広告デザイン



〒077-0044 北海道留萌市錦町2丁目
TEL (0164)42-1111
FAX (0164)42-4522

HAKUO *Printing. inc*

